



首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース  
首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

# ANNUAL REPORT

---

## FY 2017

---

Department of Tourism Science Tokyo Metropolitan University

## 目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. スタッフ                   | 01 |
| 2. 研究概要                   | 02 |
| 3. 研究成果                   | 12 |
| 4. 特定学術研究                 | 22 |
| 5. 学生教育                   | 24 |
| 6. ECO-TOP プログラム          | 26 |
| 7. ASEAN国際学生交流事業学生派遣プログラム | 27 |
| 8. 観光経営副専攻                | 28 |
| 9. 社会貢献                   | 29 |
| 10. 受賞等                   | 32 |
| 11. コース・学域プロモーション         | 33 |

# 1. スタッフ

## 1.1 自然ツーリズム領域

### 菊地 俊夫

教授／理学博士（筑波大学）  
地理学（農業・農村地理学，観光地理学），自然ツーリズム学  
※コース長／学域長

### 沼田 真也

教授／博士（理学）（東京都立大学）  
熱帯生物学，都市生態学，自然保護地域管理

### 杉本 興運

助教／博士（観光科学）（首都大学東京）  
観光地理学，応用地理学，地理情報学

### 高木 悦郎

助教／博士（農学）（東京大学）  
森林動物学，個体群生態学，ナチュラルヒストリー

### 保坂 哲朗

特任准教授／博士（農学）（京都大学）  
昆虫学，生態学，森林科学，人間と自然の相互作用  
※ 2017年12月離任

### ラナウィーラゲ エランガー

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）  
wildlife based tourism, human dimensions of wildlife

### 太田 慧

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）  
観光地理学，土地利用研究，沿岸地域研究，GIS

## 1.2 文化ツーリズム領域

### 清水 哲夫

教授／博士（工学）（東京工業大学）  
交通学，観光計画学，観光政策学，社会基盤計画学

### 川原 晋

教授／博士（工学）（早稲田大学）  
観光まちづくり，観光地域マネジメント，都市デザイン

### 岡村 祐

准教授／博士（工学）（東京大学）  
都市デザイン，都市計画，観光まちづくり，観光地域史

### 片桐 由希子

助教／博士（学術）（慶應義塾大学）  
ランドスケープ計画，観光計画

### 野田 満

助教／博士（工学）（早稲田大学）  
農村計画，都市・地域デザイン，観光まちづくり

### 古川 尚彬

特任助教／修士（建築学）（早稲田大学）  
都市計画，住環境改善，歴史的環境保全

### 平田 徳恵

特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）  
地域ブランディング，観光まちづくり，空間デザイン，環境色彩

## 1.3 観光政策・情報領域

### 倉田 陽平

准教授／Ph.D.（空間情報理工学）（University of Maine）  
地理情報学，観光情報学

### 直井 岳人

准教授／学術（The University of Surrey），工学（東京工業大学）  
観光学

### 本保 芳明

特任教授／修士（工学）（東京工業大学）  
観光政策（観光庁初代長官）

### 戸崎 肇

特任教授／博士（経済学）（京都大学）  
交通政策，観光政策

### 阿曾 真紀子

特任助教／修士（観光学）（琉球大学），経営学修士（専門職・MBA）（京都大学）  
観光，経営管理

## 2. 研究概要

### 2.1 自然ツーリズム領域

#### 大都市圏におけるジェントリフィケーションの研究（菊地俊夫、杉本興運）

本研究は、グローバル化が進展する社会における都市のジェントリフィケーションと農村のルーラルジェントリフィケーションとのネクサス（連環）形成を目指すものである。一般には都市におけるジェントリフィケーションの派生形と捉えられるルーラルジェントリフィケーションは、実際には農村地理学や農村社会学の観点から捉えられ、独自の展開を見せてきた。しかし、グローバル化や人々の移動や交流が活発化する現在、都市農村二分論にもとづく従来のジェントリフィケーション研究およびルーラルジェントリフィケーション研究では、相互作用しながら変化する大都市圏のダイナミズムを捉えることが困難となってきた。そのような大都市圏のダイナミズムを測り、応用することが地域計画や政策に求められている。そこで、本研究では都市と農村を包摂するネクサス（連環）としてのジェントリフィケーションの役割と意義について明らかにするとともに、ジェントリフィケーション研究の新しい視点としてのポジティブ面を強調する。具体的には、イギリスのレスターとロンドンを中心にして研究を進め、都市域におけるコミュニティガーデンがルーラルジェントリフィケーションの社会的持続性に貢献していることを明らかにした。

#### カナダにおける農村空間の商品化による都市－農村共生システム構築の実証的研究（菊地俊夫）

カナダブリティッシュコロンビア州のクートニ地域において、どのような形で農村空間の商品化がみられるかを、主として事例農場の観察に基づいて明らかにした。クートニ地域はブリティッシュコロンビア州の南東端に位置し、面積 85.8 万 km<sup>2</sup>、人口 14.6 万の地域である。肉牛の放牧と牧草生産が農業の中心であるが、クートニ川やコロンビア川沿いの低地、およびロッキートレンチなどでは、果樹やベリー類、野菜の生産、養豚や養鶏、養蜂が行われている。クートニ地域では人口が少ないことや輸送コストが高いことを反映して、地元向けの食料生産が拡大している。そのため、新鮮・高品質で、安心・安全な地元産の農産物に対する需要が高まっている。その結果は、クートニ地域での有機栽培とダイレクトマーケティングの発展につながっている。その際に大きな役割を果たしているのがクートニ COOP であり、各地のファーマーズマーケットなどの流通機会であった。そのような機会を通じて、農産物に付加価値をつけて地元の需要に対応するという形の農村空間商品化が、この地域の特徴であるといえる。

#### フードツーリズムの典型的な事例としてのワインツーリズムの研究（菊地俊夫）

ワインツーリズムは、農村景観やルーラリティ（農村らしさ）と強い関わりがあり、ワインツーリズムにおけるブドウ畑の景観や地域住民との触れ合いが観光資源として重要であることはもちろんのこと、農村での暮らしを体感し、地域住民との交流を楽しみ、地域の歴史やワインに関する知識を得ることも、ワインツーリズムに欠かせない要素になっている。フードツーリズムの1つとしてのワインツーリズムの研究では、各地に展開する個々のワイナリーに焦点を当て、地域特有の歴史・文化や社会・経済な

どと関連づけながら、ワイン産業を地域観光の軸にしたワインツーリズムがどのように発展してきたかを検討してきた。結果として、ワインツーリズムはワイナリーとそこでのワイン生産、およびワイナリー周辺のブドウ畑を基本的な構成要素とし、それらと関連した多様なアトラクションとの組み合わせから成り立っている。多様なアトラクションのなかで、農業に関わるものとしてブドウの栽培景観とそれに基づくルーラリティが、製造加工に関するものとしてワイン醸造が、販売・サービスに関わるものとしてワインテースティングと直売、飲食の提供、および教育研修や見学、各種イベントの開催などがある。多くの場合、ワインツーリズムは都市域の居住者に対して、都会の喧騒から離れ、非日常な空間であるブドウ畑の景観や農村での生活を楽しみリラックスできる機会を与え、さらにワイナリーでのさまざまな交流を通じて、ワイン生産や地域の歴史・文化に関する知識が得られるなどの意味をもっている。

#### 日本農業の維持発展戦略に関する地理学的研究としての佐賀平野の農業研究（菊地俊夫）

佐賀平野の農業は、集落営農組織や法人化した集落営農組織、あるいは大規模な水稲作農家や法人化した大規模な水稲作農家によって支えられ、それらの経営タイプが地域の内的な状況や外的な状況に応じて使い分けられている。このような使い分けが、佐賀平野における農業や農地の維持存続に大きく寄与しているが、佐賀平野で最も多い経営形態は任意組織の集落営農である。任意組織の集落営農が法人組織に転換されつつあるが、その数は漸増傾向であり、大規模な水稲作農家や個人の農業法人も少ない。このように、農業経営の法人化率が著しく低いのは、個々の農家が依然として個人の農地や農業に固執していることと、三夜侍や水利組織の伝統に基づく地縁組織の強さと集落のまとまりを反映している。しかし、農業労働力の高齢化や他産業への流出などにより、農業経営の存続・発展が懸念される現状において、任意組織の集落営農が法人化する方向性は農業や農地に固執する農家にとって最も可能性の高い選択肢になる。

#### 大都市における農空間の保全と適正利用に関する研究（菊地俊夫、太田慧）

都市農業が都市域ないしは市街化地域で行われていることは、世界的に共通する認識である。しかし、都市農業の形態や機能には場所によって違いがある。都市農業の機能を食料供給と、余暇空間や緑地空間の提供に大別すると、どちらに重きを置くかによって都市農業に関する性格や農村空間の商品化の様相は大きく異なる。本研究は都市農業の発展とそれとともなう農空間の保全の仕方と適正利用を、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー大都市圏を東京大都市圏との地域比較を通じて、それぞれの地域的な特徴を明らかにすることを目的に進めてきた。バンクーバー大都市圏の都市農業は食料供給のための農業生産よりも、コミュニティガーデンとして都市環境における緑地空間や余暇空間の維持に重きを置いている。東京大都市圏の都市農業はさまざまな不利な環境があるにも関わらず、農地を維持する目的でさまざまな工夫を凝らして農業生産を継続している。都市農業は農業生産だけでなく、緑地機能や住環境の向上、あるいは余暇・レクリエーション機能や地域コミュニティの維持機能など多様な機能をもつことで特徴づけられている。いわば、都市農業の農地

は生産空間だけでなく、消費空間としても活用されている。そこで、本研究は都市農業の発展を生産空間と消費空間の2つの側面を踏まえながら検討した。2つの側面の捉え方は、都市農業の農地や場を「農業空間」として捉えるか、「農空間」として捉えるかの違いに反映される。

#### 都市域の生物多様性管理に関する研究(沼田真也, 保坂哲朗, 杉本興運, 高木悦郎)

都市の生物多様性がもたらす負の生態系サービス(ディスサービス)を明らかにするため、都市住民の生物や自然的景観に対する嗜好性やディスサービスに対する受容性について検討を進めている。本年度はシンガポールの都市住民の生物多様性への意識やディスサービスに対する受容性について分析を進めた。また、オランダ・ワゲニンゲン大学が中心となって進めている野生生物価値定位(Wildlife Value Orientation)の国際共同研究に参画し、比較研究を進めている。

#### 東南アジア熱帯雨林の生物季節研究(沼田真也, 保坂哲朗)

“季節”がない東南アジアにおいて興味深い生物季節現象(数年に一度、多様な樹種が同調的に開花、結実する一斉開花現象)がみられる。この一斉開花現象は未だ謎に包まれており、そのメカニズムはよく分かっていない。本年度も木材樹種として有用なフタバガキ科樹種の繁殖フェノロジーのデータ解析を進めた。また、繁殖同調に影響する気象要因を議論するため、マレーシアの降雨、気温等の微気象の時空間様式を検討した。また、引き続き、共同研究者とともに開花フェノロジーの時空間様式、それに関わる遺伝子群がどのように環境要因や内的資源に応答しているかについて分析を進めている。

#### マレーシアの大学生の景観嗜好と環境指向定位(沼田真也, 保坂哲朗, 高木悦郎)

人々の自然環境に対する認識、態度、行動は景観の嗜好に影響することが知られている。そして、人々の環境に対する価値観の志向性を評価する指標である(environmental value orientations: EVOs)は人々の景観嗜好と関係があることが報告されているが、非ヨーロッパにおいては研究事例が極めて限られている。そこで、本研究はマレーシアアボラ大学)に在籍する学生の景観の好み、およびEVOsとの関連性をアンケート調査に基づき分析、検討した。その結果、学生は田んぼや公園などの景観を好み、その景観の自然度よりも、その景観の日常性の高さに強く影響されると考えられた。また、環境中心主義が強い人ほど野生地、農場環境、荒れた森林、自然公園の景観を好み、環境無関心主義が強い人ほどプランテーションの景観を好むことが明らかになった(塚本幸哲 卒業論文)。

#### 観光行動動態の解析および地理的可視化の方法論構築に関する一連の研究(杉本興運)

観光行動の動態を時間的・空間的に分析し、観光現象の一端を解明し、その知見を観光インパクト評価や観光マーケティングなどへ活用することを目的とした一連の研究を行った。2017年度

は、パーソントリップデータが詳細化された大規模人流データによって、都市圏スケールにおける観光行動動態を分析し、年齢や性別など観光客の属性による日帰り観光・レジャーの選択率の時間的推移や人気の訪問先などを明らかにした。また、都市住民における自然ツーリズムの実態、川越市におけるコミュニティサイクル利用観光者の回遊行動の研究を学会や論文として発表した。

#### 都市観光地の再構築にむけた地域動態・観光動態に関する総合的研究(杉本興運, 太田慧, 菊地俊夫)

大都市内部の観光地は、都市住民という巨大市場を背景に、その需要に対応することで安定した観光地経営の基盤を築いてきた。しかし、都市開発、競合地域の成長、住民の世帯交代や人口移動、流行、国際化の進展による訪日外国人増加などの諸要因による都市構造の変化に伴い、都市観光地としての様相や求められる魅力が刻々と変化し、様々な課題が浮上しているのもまた事実である。本研究プロジェクトでは、東京都の上野地域を事例に、今後の上野地域の再構築を進めるための戦略立案に必要な地域動態・観光動態に関する総合的研究を実施している。2017年度は、江戸・明治時代の商業・観光空間の復元、人口・産業・地域計画・観光事業の変遷といった一般的事項の調査、新聞記事や地域誌を基にした新たな年表の作成、写真資料やGISの3次元景観モデルを使った商店街の業種構成・土地利用・景観の変化の分析を続けた。

#### 国際都市におけるMICE戦略と基盤整備の動向に関する研究(杉本興運, 菊地俊夫)

世界の都市間競争が激化する中、MICEの誘致が都市の国際競争力を強化するための重要な施策としてみなされるようになった。Convention分野に着目すると、東京の国際会議の開催件数は年々増加しているが、シンガポールやブリュッセルといったさらに上位の競合都市との差は歴然としている。今後の東京のMICE誘致力強化のためには、組織や人材面での対策に加え、MICEに適した都市基盤構築やアフターコンベンションでの観光ツアーのための地域連携強化といった空間面での対策が必要である。本研究では特に空間面に着目し、東京MICE戦略のための効果的な空間活用方を提言するための基礎調査を実施している。2017年度は、東京、シンガポール、ブリュッセルでのMICE誘致戦略や都市基盤に関する定性・定量調査の結果を論文や書籍として発表した。

#### 若者の観光行動と地域受容基盤に関する研究(杉本興運, 太田慧)

日本観光研究学会の分科会として地理学や観光学を専門とする7名の若手研究者からなる研究グループを組織し、大都市を中心とした若者の観光行動と地域受容基盤を明らかにするためのプロジェクトを進めた。研究目的達成のために、1)若者がライフステージの各段階で経験し得る観光形態の整理、2)若者の観光行動や空間認識および活動領域の把握、3)若者を対象とした観光ビジネスや地域づくりの現状把握を行った。2017年度の実績として、大規模人流データとWebアンケートにより若者の日帰り観光・レジャーの動態を分析した。また、若者のSNSによる観光情報発信や地域イメージの特性についても調査を行った。そし

て、各メンバーが東京都内の若者の集まる観光空間（ライブハウス、イベント会場、納涼船、アニメ産業の集積地、教育旅行の受入地、食を媒介とした交流空間など）を調査対象地として選定し、そこでの各種調査を実施した。これらを2度のシンポジウムで発表するとともに、論文として発表した。

#### 都市と観光地における生物間相互作用の解明（高木悦郎）

生物多様性は、種の多様性だけでなく、生物間相互作用によって生み出されている。たとえば、植食性昆虫の寄主シフトと特殊化は、生物多様性を創出する要因の一つである。単食性昆虫は、これまで分布していなかった地域に侵入したときに、新しい餌を寄主にすることがある。こうした、新しい餌を寄主に組み込む能力は、地理的な分布拡大を可能にするとともに、地域間での寄主の違いを招き、種分化を促進することがある。

また、最近になって、植物の形質を介した間接効果が注目された。このような多種間相互作用は、直接的な生物間相互作用だけでなく、間接的な生物間相互作用を生み出す。この間接的な生物間相互作用は、直接的な2種間相互作用で予想される結果とは生態学的・進化的に異なる結果を生み出すことが明らかになりつつある。

都市や観光地では、植栽や生物の持ち込みなどにより、生物群集の劇的な変化が引き起こされる。そこで、都市や観光地を対象として、生物間相互作用系を明らかにすることを目的として、野外調査や室内実験を行っている。

今年度は、観光地の草原において、1) カメムシの1種の種分化の可能性と、2) 外来種植物の分布拡大による生物群集への影響を明らかにした。さらに、都市における余暇空間である公園において、3) 種子食性昆虫の新寄主を明らかにした。

#### 東南アジア熱帯雨林における一斉開花と種子食性昆虫の生存戦略に関する研究（保坂哲朗）

東南アジアの低地熱帯雨林では優占樹種であるフタバガキ科を中心とした多くの樹種が数年に一度、一斉に開花・結実する一方、その他の年はほとんど開花がみられない「一斉開花現象」が知られている。一方で、フタバガキ科にはその種子を特異的に食害するゾウムシが多く存在するが、これらのゾウムシが長い非結実期間をどのように生存し、次の一斉開花において種子を利用するのかが全く分かっていない。本研究では（1）フタバガキ科以外の代替寄主を持っている（2）休眠で乗り切る、の2つの仮説を検証し、これらのゾウムシはフタバガキ以外の代替寄主を持っている可能性は非常に低く、種により幼虫もしくは成虫の休眠によって長い非結実期間を生き延びている可能性が示された。これらの研究成果は、熱帯生態学会や生態学会において発表を行った。

#### 幼少期の自然体験が都市住民の自然環境や生物多様性に対する意識に与える影響（保坂哲朗、沼田真也、杉本興運）

近年都市化による自然環境の変化やライフスタイルの変化による人々の自然体験量の減少が、人の自然環境や野生生物に対する無関心や嫌悪を招き、さらなる環境や生物多様性の劣化を招くスパイラルを生じるという「経験の消失」仮説が議論になっている。本研究では、この仮説を検証するため、都市住民の生物多様性に対する意識（好き嫌いや受容性）や自然ツーリズムの参加頻度と

幼少期の自然体験量の関係を解析した。その結果、社会属性（性別、年齢、収入など）を統制したうえで、幼少期の自然体験量はこれらの意識や頻度に強い正の影響を持っており、幼少期の自然体験の減少はその後の自然離れを招く可能性が示唆された。研究成果は国際学術誌で発表された。また、マレーシアやシンガポールなど文化や都市化度合いの異なる国でも調査を行い、データを解析中である。

#### スリランカの野生動物保護の維持におけるワイルドライフトーリズムの役割（ラナウィーラゲ エランガー）

スリランカでの野生動物の保護において、人間と動物の軋轢は重大な問題となっている。ワイルドライフトーリズムは、地元農民に新たな収入源をもたらすことによって、人間と動物の軋轢を軽減する方法として期待されている。

本研究では、スリランカの野生動物保護の維持におけるワイルドライフトーリズムの実態について調査した。

ワイルドライフトーリズムは、ガイドやサファリジープの運転手など、地域住民のための新しい雇用機会をいくつか生み出した。しかし、こうした新たな仕事をしていくために必要な教育やサポート、また公園管理への農民の関わりは非常に少なく、結果として保護区域におけるワイルドライフトーリズム活動の実施に悪影響を与えることになり、人間と動物の軋轢意外にも野生動物の攪乱といったような新たな問題が生じていることが分かった。

#### 東京湾におけるナイトクルーズの展開と地域需要基盤（太田慧）

近年、日本におけるクルーズ需要は高まっており、都市におけるナイトクルーズも都市観光におけるナイトライフの充実を図るうえで重要な観光アトラクションとなっている。本研究課題では、東京におけるナイトクルーズをとりあげ、その歴史と現在の傾向について整理し、ナイトクルーズの集客戦略の変化と利用特性を明らかにすることを目的としている。これとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにむけて再開が進む東京臨海部の状況について明らかにすることで、東京におけるナイトクルーズと東京臨海部の展望を検討する。昨年度の研究では、1950年に創業した歴史あるナイトクルーズを例として、ナイトクルーズの集客戦略、乗船客の傾向、ナイトクルーズと臨海部の再開との関連の3つを調査した。1970年代まで主な客層は中年男性であったが、1990年代以降は東京臨海部にさまざまな娯楽が出現し1990年代以降の乗船客数は徐々に減少していった。これに対して、ナイトクルーズは若者をターゲットとした集客戦略の転換が図られた。この集客戦略の転換によって、現在のナイトクルーズの乗船客は20～30代の若者になり、女性客も増加した。

#### 東京都小平市における産業振興計画作成（太田慧、菊地俊夫）

近年、東京都小平市の市内産業を取り巻く環境は大きく変化し、住宅化の進行や産業構造の転換にともなう工場の移転や規模の縮小、個人商店の廃業や農地の減少など、市内産業をめぐる課題への対応が必要となっている。このため、東京都小平市では新たに産業振興基本計画及び農業振興計画を策定した。

そこで、これらの計画策定の基礎資料とするため、市内事業者の経営状況や課題、今後の方向性等の経営実態のほか、市民の購

買行動や市内産業に対する認識等を調査・分析した。本調査では、小平市内の企業、商店会、農家に聞き取り調査を実施するとともに、市民、企業、農家に対してアンケート調査を行い、小平市の産業の実態を調査した。その結果、市内事業者の慢性的な人手不足の課題と女性の高い就労意欲のマッチングの可能性が示唆された。なお本調査は、首都大学東京、小平市産業振興課、多摩信用金庫との連携によって行なわれた。

## 2.2 文化ツーリズム領域

### 地域や産業での観光振興の担い手を育成する教育プログラムに関する研究（清水哲夫、平田徳恵、戸崎肇、直井岳人）

地域や産業における観光振興の担い手を育成するための教育プログラムのあり方について研究し、一部その試行を行った。日本の観光人材育成関連施策の経緯と基本的考え方、国内外の主要観光学高等教育機関の人材育成ポリシー・カリキュラム・産学連携プロジェクト実施状況・人材輩出状況、観光業界の人材獲得ニーズなどについて、インターネット・文献調査やヒアリング調査を通じて明らかにした。その上で、今後日本で必要となる観光人材育成について、育成すべき人材像を活躍する分野と職位で規定し、各分野・職位で必要となる知識構成について試案を提示した。加えて、育成すべき人材像の一つとして観光地域経営人材を取り上げ、それを育成する教育プログラムを試験的に開発・提供し、その妥当性を評価するとともに、今後の改善の方向性について整理した。

### 位置情報ビッグデータや統計を観光や交通の政策・施策提案に役立てるための分析技術に関する研究（清水哲夫、片桐由希子）

モバイル機器を通じて取得できる観光者の位置情報ビッグデータや観光・交通統計を活用した政策提案に向けたデータ解析分析技術を複数研究した。第一に、モバイル空間統計と独自アンケート調査を組み合わせ、観光地の駐車需要と収益を推計するシミュレーション分析手法を開発した。第二に、訪日外国人プローブデータを活用して、訪日外国人旅行者による出国日の観光周遊特性を分析し、空港を活用した観光振興の基本的考え方を提示した。第三に、ICカード決済データを活用して、都バスを利用した観光周遊行動を抽出する方法論を基礎的に提案した。第四に、シェアサイクル利用データを活用して、観光利用を推計する方法論を検討した。第五に、日本を対象とした応用一般均衡分析を実施して、交通政策が観光産業振興に及ぼす影響を定量的に把握する方法論を開発した。

### 国や都市・地域における観光振興の政策立案に資する研究（清水哲夫）

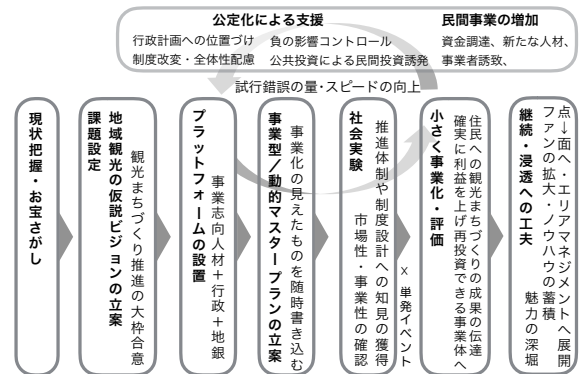
国や都市・地域の観光振興に必要な政策を提言するための基礎研究を複数実施した。第一に、地方空港の国際航空路線誘致戦略の策定を支援する需要分析モデルを開発した。第二に、ステークホルダーインタビューを通じて、ネパールのヘルスツーリズムの競争力や展開可能性を評価し、持続的成長に向けた基本戦略を検討した。第三に、国の政治の混乱が観光客の心理や行動に及ぼ

す影響を定量的に分析する方法論を提案した。第四に、観光地における地元住民の外国人ドライバーの受容性を定量的に分析する方法論を提案した。第五に、地方自治体による観光自主財源の導入方法を基礎的に提案した。第六に、観光地街路ネットワークにおける望ましい交通管理方策の導入に向けて、歩行者の街路の通行機能や観光機能に対する満足評価メカニズムを分析する方法論を提案した。

### 地域観光プランニングの計画技術の体系化研究（川原晋、岡村祐）

観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして、日本建築学会の小委員会として活動している研究である。観光の計画対象が観光施設開発といったハードからソフト中心となった今日、より質の高い観光「エリア」を作っていくためのハードとソフトが連動した計画論である。それぞれに関わる先進事例の調査をもとに、今年度は、従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングを行いつつ、手法の要点を整理した。具体的には、観光の基盤である地区スケールで環境・空間改善や、観光行動を行う地理的・空間的環境の中で観光資源をとらえることを重視し、ハードとソフトコンテンツの両輪を計画・整備・管理していくための調査方法、計画・ビジョンのつくり方、組織の作り方、プロセスデザイン、社会実験を通しての事業化、モニタリングなどの手法である。

要点の一つである、「観光化の負の側面の将来予測とその要因となる外部資本事業者や観光客行動等のコントロール」については、北海道二セコ・倶知安ひらふ地区を合同調査し、スキーリゾート地として外国資本参入を含む急激なジェントリフィケーションが進む地区において、観光化をコントロールする対象や手法についての視点を広げた。



地域観光プランニングのプロセス概要

### 地域観光プランニングカレッジ：観光まちづくり人材教育プログラムの開発（川原晋、岡村祐）

地域観光プランニングの方法論を体験的に学ぶ、全国の学生を対象とした「地域観光プランニングカレッジ」（カレッジ長：川原晋）を企画し、7～9月にかけて実施した。本カレッジの初回の実施フィールドは研究チームが専門家としても関わり、温泉地の刷新プロジェクトを推進している山口県長門湯本温泉とし、研究者、実務家からなる共同研究者13名、学生12名、地元住民や

事業者約 25 名が参加した。プログラムは、事前調査課題（Webゼミ）＋合宿型ワークショップからなる。その特徴は、1）事前調査課題と合宿期間の現地調査を通して、多様な関係者が一緒に参画したいと思える空間像や活動像を表現する「仮の将来ビジョン」を描くこと。2）地域の多くのキーパーソンとの懇談を通して、その地域の人材の特徴を活かしたチームメイキングや事業提案、進め方を考える「人材指向型の計画アプローチ」で、「主体の見えるプロジェクトの提案」をすること、3）仮の将来ビジョンを実現するための可能性や課題を洗い出すための、期間限定の「社会実験」を提案すること、である。

実施後は、既存の地域計画に関わる短期集中型研修プログラムとの比較や、改善点を整理した。提案の一部は現地住民有志と共に実践段階に進んでいる。

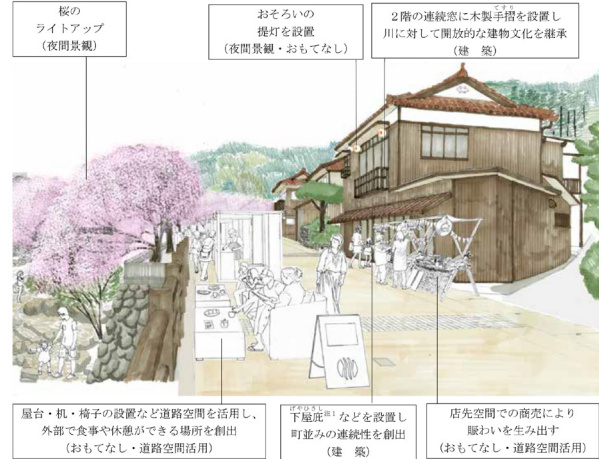


地域観光プランニングカレッジに参加した学生、講師陣、地元の皆さん

### 長門湯本温泉 観光まちづくりを支える景観ガイドラインの策定（川原晋）

山口県長門市に位置する長門湯本温泉の再生のために、長門市が星野リゾートの協力を得て 2016 年 8 月に策定した「長門湯本温泉観光まちづくり計画」を民間事業者、地域、行政が強く連携して実現していくためのプロジェクトである。地域観光プランニングの考えに基づく計画策定や事業推進に取り組んでいる。150 年の歴史を誇る老舗ホテルの倒産などにより遊休地が多くみられる閑散とした現状から、人気温泉地ランキングで全国 10 位以内に引き上げることを目標に掲げている。その取組の一つとして観光地再生を強く意識した先進的な「長門湯本温泉景観ガイドライン」を策定した。その特徴は、1）河川や道路空間などの公共空間や、民地の地先空間の積極的な活用による観光地再生を支える景観ガイドラインであること、2）良質な景観がまだないところで、迅速に作っていくための社会実験イベントとの連携による将来像の見える化や、地元の設計・施工者施工者ワークショップの導入による担い手形成、押しかけ提案（空き家調査とリノベーション提案と合わせた景観整備モデル事例の推進）を連動させていること、3）すぐの効果が目に見える街の特徴を引き出し宿泊を促すこと、4）夜間景観の積極的な形成をねらっていること、5）今後民間投資を誘発するタイミングで、良質な投資事業には心強く、長門湯本らしさを欠く投資事業には歯止めになることを狙ったこと、6）現代の観光者のニーズである交流への期待に対応して、民間敷地や民間活用公共空間でのホスピタリティ（表現）の向上や演出のアイデアを盛り込んでいること、である。詳細は <http://yutomotomirai.jp>

#### 【道路空間の活用】②楽しく安心してそぞろ歩きできる温泉街をつくる



長門湯本温泉景観ガイドラインに掲載された景観形成イメージ

### 高尾山地区観光地マネジメントプロジェクト（川原晋、清水哲夫）

人気の登山観光地だからこそ抱える環境破壊や渋滞問題などの観光の負のインパクトを軽減し、観光地だからこそ可能な、観光者との交流によるまちの活性化や定住者発掘、まちづくり資金を稼いで環境改善を進めることを目指す観光まちづくりプロジェクトである。

27 年度末に策定した地区の都市計画方針に基づきつつ、行政だけでは進めづらい事項について、大学主導で地域、民間企業に働きかける提案型の取り組みを行っている。具体的には、①GW や紅葉ピーク時の駐車場探索行動が原因の渋滞軽減と、まちづくり資金の形成をめざした「たかおまちパーキングシステム」と名づけた、民間敷地の駐車場の包括的事前予約管理のシステムを導入と実証実験、支払い意思額の特性分析（清水教授と共同）、②南浅川地区の里山環境と「関東ふれあいの道」の起終点という資源を活かした環境整備提案とまちづくり活動の立ち上げ支援、③高尾山口駅前の河川護岸改修と沿川の公園のリノベーションによる公共空間の積極的な民間活用と魅力化の検討、などである。

### 里山再生×コミュニティ形成をめざす住宅開発地でのエリアマネジメント（川原晋）

稲城駅直近における約 3000 戸規模の土地区画整理事業による大規模住宅地開発にあたり、現代の都市生活で使う山としての里山再生と、新旧居住者のコミュニティ形成を支援するプロジェクトである。H26 年度に企画・運営をした活動拠点施設となる公園管理棟の計画ワークショップを通して組織化された「エリアマネジメント南山」が活動母体となっており、地域に住む地権者、農家、都市プランナー、グラフィックデザイナー、地産地消カフェ経営者、里山保全活動家等や、後方支援にディベロッパーが参画している。H28 年度からは、土地活用事業、農業体験事業、緑化推進事業、里山再生事業、公園づくり支援事業、コミュニティ形成事業、活動アーカイブ事業の 7 事業が立ち上がり、H29 年度は、新規に入居した約 400 戸の住民のニーズを受け止めたエリアマネジメント活動に展開していくための将来像や進め方の見直しを図る





### 戦前期における大都市近郊の市民健康路（ハイキングコース）の選定と活用（岡村祐, 片桐由希子）

1930年代に都市近郊のハイキングコースとして、東京鉄道局と東京市の企画で最大103の「市民健康路」が選定され、官民による積極的な活用が行われた。これは、東京緑地計画で整理された景園地や行楽道路など、都市住民の休養を目的とした広域の緑地計画に対する具体的活用策の一つであった。本研究では、このハイキングについて、第一に、戦前期から昭和30年代まで続く流行の実態を明らかにするために、旅行誌、ファッション誌、児童誌など網羅的に雑誌記事の収集を行った。第二に、当時設定された各々のルートの具体的整備実績や誘客策を明らかにするために、野猿峠越えコース（東京都日野市・八王子市）等の現地踏査を行った。第三に、京都・大阪等関西圏においてどのように展開したのか、文献調査や現地踏査によって、空間的・地形的特徴を明らかにした。なお、本研究は首都大学東京都市環境学部傾斜研究費（若手奨励経費）を受けて実施した。

### 縮退時代の公園・緑地の管理手法に関する研究（片桐由希子）

少子高齢化や人口減少に伴う社会的状況やライフスタイルの変化は、都市における公園緑地の機能と管理運営の変化を促すものとなっている。指定管理者制度を用いた民間事業者による管理運営では、行政職員では行き届かない地域の実情に沿った対応が可能となることなどが利点として挙げられるが、創設から十数年が経過した現在、指定者による管理が、状況に即して更新されながら安定的に存続するものとなるための仕組みが求められる。

そこで本研究では、行政と管理者、市民との間で公園緑地のあり方を共有するコミュニケーションツールとして、管理者による安定的な運営管理の存続に資することを目的とし、公園緑地の運営管理に対する評価指標と地域での社会的な評価のしくみを提示する。2017年度は、先進事例を対象にステイクホルダーとなる行政担当者や関係者へのヒアリング、対象地となる郊外住宅地における地域マネジメントの現況を調査した。

### 地域に活動の場を見つける入り口としてのプロジェクトスクールの実施（片桐由希子）

谷中地区では、近年観光客の増加と不燃化促進や相続に伴う近年の開発・更新、都市計画道路の見直しの動きが加速しており、地域の歴史文化、生活資源を継承するための制度提案や事業を実践できる人材やそのネットワークの強化が必要となっている。そこで、2016年よりプロジェクトスクール@谷中として、東京文化資源会議の支援を受け、関連制度や建築・保全の技術、事業計画、地域住民との意見交換などの「講義」と調査・研究やプロジェクトを提案する「実践」の2本立てのプログラムを試行している。2018年度は、6月から9月の約3ヶ月間、実践課題は、すでに地域で活動をする主体のサポートを得ながら、暮らしや仕事、コミュニティに関わる小さなプロジェクトを実践する、参加費有料のプログラムを企画した。各プロジェクトは現地調査や生活者、観光客へのヒアリングを踏まえて企画、講師及び地域住民による意見交換の場を経て実践され、いくつかの継続・発展的な取り組みに繋がっている。

### 東京文化資源区における地図及び地域文化資源のアーカイブ（片桐由希子）

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて文化都市としての東京を発信するために、東京都心北東部に存在する多様な豊富な文化資源を「見える化」し新たな活動に展開する、あるいは地元の活動を持続発展させるためのアーカイブを構築する東京文化資源会議のプロジェクトで活動した。「地図」のアーカイブでは、収集された地域の地図とオープンデータとして各機関が公開する地図を組み合わせながら、新たに地域の歴史・文化を発信するための「カタログ」を検討し、プロトタイプを作成した。また、「地域の生活文化」のアーカイブでは、地域雑誌「谷中・根津・千駄木」の冊子および冊子作成に用いられた各資料のデジタルアーカイブを構築するとともに、これに基づく展示や聞き書きイベントを実施し、アーカイブが地域の情報基盤として、生活文化の継承、コミュニティの発展に資するものとなるためのシステムや仕掛けを検討した。

### 「淡路島ロングトレイル構想」の統括支援を通じた「観光むらづくり」の理論構築（野田満）

本研究は、淡路島・洲本市竹原集落への継続的関与を通じた企画調査及び実証実験によって、「定住人口の為の雇用創出」と「交流人口・関係人口の関与を前提とした集落の空間や慣習の維持管理」を併せ持った計画論としての「観光むらづくり」の理論的枠組みを提示することを目的としている。

今年度はプロジェクトをアーカイブ化したブックレット作成の他、山歩きマップ・観光資源マップの機能を併せ持った「マップ」と、観光ガイドの質的向上に向けた「テキスト」の2つのコミュニケーションツールの制作、及び集落外の参加者を募ったモニターツアーを2回実施した。次年度も引き続き集落住民との協働を通して地域の持続的振興に貢献すると共に、プロジェクト成果の一般化、理論化に取り組む予定である。

### 観光まちづくりと防災まちづくりの両立に向けた自治体間連携の可能性検証（野田満）

本研究は、平常時の自治体間連携である国内姉妹都市と、非常時の自治体間連携である災害時応援協定との相互補完をベースとした、圏域に依拠しない広域ネットワークによる自治体間連携の活用可能性についての検討を試みるものである。

今年度は研究の基礎調査として、複数の中山間地域自治体を対象に、連携の契機となった出来事や連携自治体相互の共通事項、自治体間連携の活用状況等についてのヒアリング調査を行ない、平常時の自治体間連携のニーズや、活用の際の障壁を把握した。次年度は自治体担当者を対象としたアンケート調査に基づき、より実効性ある自治体間連携に向けた提言を取りまとめる予定である。なお本研究は文科省科研費（若手研究B）「過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究：今日的課題と活用プロセスの解明」を受けて行われたものである。

### 中山間地域における地域人口と地域経済の一体的取り戻し戦略の構想（野田満）

本研究は、人的、財的リソースの流出の著しい中山間地域を対象に、地域人口（ヒト）と地域経済（カネ、シゴト）を一体的に

取り戻す為の戦略を構想することを目的としている。

今年度は食料、燃料の地域内生産、消費による所得創出及び扶養可能世帯数のシミュレーションに加え、「教育環境の流出の実態把握と取り戻しの検討」として小学生の習いごとに着目し、調査分析を行った。次年度は引き続き、中山間地域の「人の空洞化」「土地の空洞化」、そして「知の空洞化」に対応する為の戦略構想に向けた分析を進める予定である。なお本研究は環境省環境経済の政策研究（第Ⅲ期）「低炭素・循環・自然共生の環境施策の実施による地域の経済・社会への効果の評価について」の一環として行われたものである。

### モンスーン地域を住みこなす親水居住の類型化を通じた集落更新モデルの構築（古川尚彬）

当該研究の目的は、ベトナム・フエの香江流域圏において「モンスーン気候を住みこなすような暮らし」を続けてきた当該地域の親水居住の特徴を明らかにすることである。

前年度までに、洪水常襲地であるにも関わらず集落が形成され、現代までに発展を続けてきた香江中流域の金龍坊、水瓢坊涼館邑、蜆島という3つのエリアを対象に、個々の敷地単位での水環境を住みこなすような工夫について調査を行い、それぞれの対象地において、日常的な生産活動のために使いやすいようにするだけでなく、住居への洪水被害の軽減を目的とした家づくりと庭づくり、水辺空間づくりをしている実態について明らかにし、その特徴について整理した。

当該年度は、主にフエ市郊外の船上生活者の再定住エリアを対象に現地調査を行い、船上と陸上を使い分けながら定住環境を段階的に整備してきた実態を明らかにした。

尚、当該研究は、科研費若手研究(B)『モンスーン地域を住みこなす親水居住の類型化を通じた集落更新モデルの構築』の一環として実施したものである。

### フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法（古川尚彬、川原晋）

当該研究は、ユネスコ世界遺産に登録されているベトナム・フエ歴代皇帝陵を対象に、その歴史的環境保全に関与する周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメントのあり方について模索するものである。

当該年度は、初代皇帝の陵墓「嘉隆帝陵」とその周辺地域を対象に、文化的景観や水利システムといった地域資源を適正な形で現代社会の中で保全・活用し、持続可能な地域開発につなげていくための方策の一つとしてエコスタディツアーを企画し、ベトナム人、外国人向けに計3回試験的に実施した。この「嘉隆帝陵エコスタディツアー」では、その企画段階から集落民に参画してもらい、遺跡の周りだけでなく、周辺集落にある魅力も訪問者にアピールするための仕掛けを用意して、単なる遺跡観光や環境教育とは異なる、より広域の観光スタイルの可能性について検討した。今後はより組織的な運営を目指すべく、現地の観光局にも参加してもらって、コミュニティツーリズムの運営モデルを構築していきたい。

尚、当該研究は、科研費基盤研究(B)『フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法』の一環として実施したものである。

### 東京都多摩地域の自治体による観光施策位置づけの比較研究（平田徳恵）

東京都が振興すべき地域と捉える多摩地域の自治体が目指す地域の目標像について、隣接する神奈川県（相模原市）を含む多摩地域31市町村の地方版総合戦略（まち・ひと・しごと総合戦略）を俯瞰し、多摩地域の自治体による観光政策の位置づけを把握した。その結果、総合戦略の基本目標1として観光の視点を打ち出している自治体は、東京駅から約40km以内の多摩東部に位置する市・町であり、31市町村のうち5自治体に留まることが分かった。また多摩地域の自治体のうち半数以上において、観光入込客数や集客数のKPI設定があることが分かった。

### 自治体職員に向けた地域創生事業立案研修プログラムの開発と試行（清水哲夫、平田徳恵、川原晋、岡村祐）

多摩地域の自治体職員の情報処理や地方創生の政策立案能力の向上を目的とした研修プログラムを提供する「地域創生スクール」を設立した。修得すべき能力として4つのデータ力、これらを高めるための5つの技術を設定し、そのためのカリキュラムを試行的に開発、受講生の参加を得て、その効果や課題を検証した。その結果、体感的に理解できる内容でないことと理解度が高まらないこと、多くの受講生に受講後の理解度の改善が確認されたこと、演習やグループワークの時間を増やすことの要望が強いことなどが確認できた。今後も引き続きカリキュラムの改訂および講座の開発を予定している。

### 研究者による住まい・まちづくりの専門的知識を一般市民と共有する取り組み（平田徳恵）

日本建築学会における住まい・まちづくり支援建築会議情報事業部会では、住まいやまちづくりに関する活動を支援し、社会公共に寄与することを目的として、市民が正確な知識を持ち、住まいやまちづくりに対する理解を深めるための情報普及活動に取り組んでいる。この活動において、研究者と一般市民の間の垣根を低くし、住まいやまちづくりに関する情報の共有ができるような仕組みづくりと情報公開が行われてきた。これまで公開されてきた住まいのすざろくに、まちづくりについても市民に興味を持ってもらえるよう、まちづくり要素を加え、市民に分かりやすく知識を伝えるためのツールとしての改訂を行った。今後、空き家対策等を含めさらなる改訂を行うことを予定している。

## 2.3 観光政策・情報領域

### ボランティアガイドを同伴する訪日外国人観光客の東京圏での観光消費行動の分析（倉田陽平）

東京圏で訪日観光客に対しボランティアガイドを行うガイド団体の随伴記録データの提供を受け、消費額の大きな都内の地域や店舗の分析など、従来のデータでは難しかったミクロスケールでの消費活動状況の分析を行った。国籍別・グループ構成別の消費額の差異等の分析も行った。また、決定木学習法を利用し、高額消費しやすい参加者の属性についてデータマイニングを行った。

## 町歩きプラン作成支援ツール CT-Planner の対応地域拡大と改良 (倉田陽平)

当研究室が開発してきたオンラインまちあるきプラン作成支援ツール CT-Planner のさらなる実用化と普及を進めるため、対応地域の拡大(千葉, 水戸, 新潟, 出雲, 鹿児島, 川越, 八丈島, 神津島, 父島, 萩, 下関), 多言語化を進めた。また東京大学人工物工学研究センター原辰徳研究室とともに TourismExpo ジャパンに三度目となる出展を行った。同研究室とともに、混雑を加味したプラン作成支援や, mapple API を利用した周辺見所を取り組んだプラン作成の実現など, さまざまな改良に取り組んだ。

## CT-Planner を基盤とした観光地分析ツール CT-Planalyzer の開発 (倉田陽平)

東京大学人工物工学研究センター原辰徳研究室との共同研究により CT-Planner 内で一定の条件を満たす街歩きプランを大量生成し, これを地図上で重畳表示したり, プラン中に頻りに登場する観光資源の組み合わせを表示したりすることによって, 主要動線など観光地の可視的分析を可能とする観光地分析ツール CT-Planalyzer の開発を行い, 試験公開を開始した。

## オンライン仮想観光ツアー作成ツールの改良と教育現場での応用 (倉田陽平)

一昨年度開発した「だれでもガイド」(Google ストリートビューや自前の写真・パノラマ写真を利用して, 誰もが簡単に仮想観光ツアーを作成・発信できるツール) の観光教育・地域教育の現場での利用可能性を検証するため, 基礎ゼミでこれを利用した演習を行い, 他校(福島県立テクノアカデミー会津, 広島県立廿日市高校)で行われた演習成果のオンライン公表も行った。また, 観光案内所等によりインパクトの高い案内を実現するため, スクリーンの前に立つて案内する「ロボットガイド」の導入についても模索した。

## ソーシャルビッグデータからの価値ある観光情報の抽出 (倉田陽平)

従来の twitter などを利用した観光地分析が実際の書き込みの内容に基づく分析に傾倒していたのに対し, 鈴木祥平氏とは Twitter の各利用者が登録したユーザプロフィールを用いることで, 圧倒的多数と思われる read only member(ROM) も含めた各観光地のファン層の特性把握, これによる観光地のマーケティング分析の可能性を提示した。鈴木祥平氏とは Twitter のデータを用いてゆるキャラ名義での情報発信と観光協会名義での公式的な情報発信やフォロワーの差異を分析し, ゆるキャラ名義での情報発信の意義を検討した。鈴木祥平氏とは Facebook に新たに導入された「いいね」以外のリアクションが観光協会などの情報発信に対しどのように使われているかを分析した。宮坂涼氏・鈴木祥平氏とは旅行予約サイトのデータを用いて「隠れ家」などのユニークな差別化コンセプトを標榜しているか, そのようなコンセプト宿がどのような地域に多く立地しているか, どのような写真を掲載する傾向にあるか, クチコミに現れがちな不満点などの分析を行った。小池拓矢氏・鈴木祥平氏とは Pokémon GO プレイヤーが各地で発したツイートのテキスト分析を行い, これにより, 同ゲームによって参加者が各地の魅力に気づきを得て, それがまた, ゲームの魅力になっている現状を明らかにした。このほか, 広島市立大学難波研究室などと旅行記プロ

グデータを用いた共同研究を行った。※協力学生: 鈴木祥平, 宮坂涼, 小池拓矢

## 商業空間における外国人観光客・住民間交流と地域理解促進の関心の類型化 (直井岳人)

那覇市国際通り周辺商店街及び川越市一番街(古い町並)で, 知覚される店舗のサービススケープ, 店舗の印象および欲求充足(購買欲求, 地域堪能欲求)の関心について, 留学生を対象に現地印象評定調査を実施した。川越一番街の結果と日本人学生を対象とした先行研究の結果の比較から, 国籍に関わらず内観の整然性が歴史的建物と商店の両面での好ましさの正の影響を及ぼし, 日本人学生の場合は外観が開放的, 留学生の場合は閉鎖的であることが両面での好ましさの正の影響を与えることが分かった。従って, 内観を活用し外観の保存する重要伝統的建造物群保存地区の在り方を利用した観光振興のターゲットとしての外国人の適切さが示唆された。平成 28 年度那覇市商店街での東京の大学生と県内観光業従事者対象の同様の調査の結果については, 2つの国際学会で発表し, 英語学術図書の章として執筆依頼を受け, 学術論文として投稿中である(科研基盤 C 研究)。※協力学生: 上原明, 大目梨香子

## 参加者の評価を高めるエディテインメントとしてのガイドの特性 (直井岳人)

観光研究では, 訪問客が観光に教育, 楽しみのどちらを求めているかが議論となる。本研究は, 参加者によるガイドツアー評価研究に, 楽しみと教育の複合概念であるエディテインメント及び参加者のガイドツアー主催者が考えるガイドツアーの価値に関する認識の度合いを表す価値共有の概念を援用した初めての試みであり, 那覇市首里城ガイドツアー参加者を対象に, 参加者が認識したエディテインメントとしてのガイドの特性とガイドツアーの全体評価の関係, そうした関係性に参加者の価値共有の度合いが与える影響を明らかにすることを目的とした質問票調査を実施した。その結果, エディテインメントが, 楽しみと教育の二項対立概念ではなく相対的に高度・浅い2つのエディテインメントに分かれること, 浅いエディテインメントが全体評価に正の影響を与えること, 価値共有の程度が強い参加者が2つのエディテインメントをより異なるものとして認識することが分かった。※協力学生: 鍋島和弘, 上原明

## 観光地の2つの近接空間における混雑感と好ましさの規定要因 (直井岳人)

観光地における混雑は観光研究における長年の課題である。この課題に関連する心理学的観光研究のトピックに混雑に伴う精神的ストレスであるクラウディングがある。本研究は, 隣接する特性の異なる空間からなる観光地でのクラウディングを対象とした希少な試みであり, 調布市深大寺境内と周辺商業空間への訪問客を対象に, 各空間のクラウディングの規定要因と, 各空間のクラウディングの各空間の全体評価, 両空間を合わせた全体評価への影響を明らかにすることを目的とする質問票調査を実施した。その結果, 境内のクラウディングには他の訪問客の性別の類似性, 訪問客の静けさを楽しむ動機が負の影響, 商業空間のクラウディングには他の訪問客による通行の妨げが正の, 静けさを楽しむ, 散歩する動機が負の影響を与えていること, 境内の混雑感だけが

両空間への評価に負の影響を与えることが分かり、訪問客の特性と宗教空間の関係に特に留意する必要性が示された。※協力学生：立川まゆみ、中俣良太

### Pull-Push 要因の枠組みを基とした、離島への訪問意向に影響を及ぼす動機に関する研究（直井岳人）

観光研究では、具体的な対象物を前提したプル動機が、直接、あるいはより内発的なプル動機を介して観光地訪問動機を触発するというモデルがしばしば援用される。しかしこのようなモデルでは、離島のように観光対象となりうる資源の数や種類が豊富とは言えない観光地への訪問動機を説明することが難しいと思われる。本研究は、大学生を対象に、彼らのプル動機、プッシュ動機と離島への訪問動機の関係性を明らかにすることを目的としたWEB質問票調査を実施した。その結果、プッシュ要因である「自己拡大」「生活変化」動機のみによる離島訪問動機への有意な影響が明らかになった。従って、大学生を対象に離島への訪問を振興する際には、彼らの「変化を求める内発的動機」に訴えることが有効である可能性がある。※協力学生：安田詩菜、岡野雄貴

### 観光情報ミックスと観光地イメージの関係（直井岳人）

観光情報により形成される観光地イメージは観光旅行者の旅行先決定プロセスにおける重要な要素である。本研究では、インターネットの普及によって複雑化した観光情報の種類の学術的整理の不足に鑑み、観光情報の再整理と、再整理した観光情報の参照と観光地イメージとの関係を明らかにすることを目的とした。調査では、日本関連ソサイエティに所属するイギリス在住非日本人を対象に、日本に関する情報参照と観光地としての日本のイメージについて尋ねるWEBアンケートを実施した。その結果、メディアなどのAutonomous情報と口コミなどのOrganic情報による日本の物理的イメージへの影響、オンライン投稿情報などのuser generated contentsの感情的イメージへの影響が明らかになった。以上から、商業意図のない情報発信、オンラインユーザの情報発信の観光地イメージ形成における重要性が示された。※協力学生：田中涼

### インバウンド研究(本保芳明, 清水哲夫, 倉田陽平, 直井岳人)

我が国のインバウンドの取組の充実・強化を図るため、(株)三菱総合研究所及び(株)ぐるなび総研とともに、観光庁、自治体、大学関係者、観光関係主要企業等からなる産学官連携の「プラチナインバウンド研究会」を主宰し、調査研究を行っている。

### 観光経営トップセミナーの取組み（本保芳明, 清水哲夫, 阿曾真紀子）

本研究は、2011年から観光経営教育研究の高度化・浸透を目的とする産学連携の取組み“観光経営トップセミナー”を本学都市環境学部自然・文化ツーリズムコース観光経営副専攻が中心となって行ってきたことについて、現状の取組みに対する課題から継続する上でのありかたを模索し、考究している。

現在、受講生は観光産業界の主要企業の幹部候補生で構成され、第1回目の開催の参加者から累計で100名を超え、旅行業界

の将来につながるネットワーク形成に寄与することを期待される。

### 日本の観光立国化に向けたインフラの整備（戸崎肇）

近年、日本は観光立国化を推進する方向に大きく方向転換し、積極的な政策展開を行っている。それにともなって、ハード、ソフトの両面から様々なインフラ整備が行われているが、長期的な観点から、それらすべてが的を得ているものとは到底思われない。むしろ、これまで日本が独自に築き上げてきた安全で快適なハード、ソフトのサービス、ホスピタリティの提供を蝕むような可能性のあるものまで強く提起され、実践されようとしている。本研究では、そうした危険な動きについて市場の現状に照らし合わせながら、なかなか表層的には見えてこない本質的な問題性を提起し、その解決を図ろうというものである。特にシャリング・エコノミー、ギグ・エコノミーを安易に日本市場に導入することの危険性を指摘し、本来の公正な市場競争のルールに則った競争環境の確保のためには何が必要かを問っている。その中では、事業の持続的発展性を保障するために、労働者の労働環境の整備の重要性を指摘している。

### “観光経営トップセミナー”の人的ネットワークの研究（阿曾真紀子）

2011年から観光経営教育研究の高度化・浸透を目的とする産学連携の取組みを本学都市環境学部自然・文化ツーリズムコース観光経営副専攻が中心となって行ってきた“観光経営トップセミナー”の参加者に注目した継続的な研究である。

今年度においては、セミナーに参加前後の態度や行動から個別のネットワークを調査し、ネットワークの形成の全体像を解明を試みた。その調査の結果、セミナーに参加したネットワークの形成は、観光関連産業における経営向上に貢献していることを見出すことができた。

### DMO および DMC(Destination Management / Marketing Organization and Company) に関する研究（阿曾真紀子）

DMO および DMC(Destination Management / Marketing Organization and Company)の海外の取り組みについて明らかになっていないことも多く、日本の地域経営に適応の可能性について、その構造や実現に向けた道筋を考究している。継続調査中の研究であり、本年度は実態把握のための予備調査を行った。

研究対象はハワイでの日本企業および日本の地域である。ハワイ州政府観光局および観光関連産業へのインタビュー調査を行った。今年度の成果は、中間組織のモデルにハワイ州政府観光局を調査し、機能、構造および地域との連携に鍵があるところまで探り出せたので、詳細は次年度の調査で行っていく。

## 3. 研究成果

### 3.1 自然ツーリズム領域

#### 菊地俊夫

##### ■口頭発表

- lizuka, R. and Kikuchi, T., "New developments in urban agriculture due to diversified farming: The case of Kodaira City, Tokyo", XXVII European Society For Rural Sociology Congress, クラクフ・ヤゲウォ大学, 2017年7月.
- lizuka, R. and Kikuchi, T., "Construction of new rurality in the urban fringe: A case study of Kodaira-city, Tokyo Metropolis", EUGEO, ブリュッセル・アカデミー宮殿, 2017年9月.
- lizuka, R., Yabuuchi, Y., Phillips, M. and Kikuchi, T., "The development of urban gardens and sense of community in Leicester City, England", EUROGEO Conference, ドイツ・ケルン・ケルン大学, 2018年3月.
- 田林明・菊地俊夫・トム・ワルデチュック, "カナダ・ブリティッシュコロンビア州のクートニー地域における有機農業の発展にみる農村空間の商品化", 日本地理学会秋季学術大会, 三重大学, 2017年9月.
- 杉本興運・菊地俊夫, "知多半島におけるインバウンド観光の現状と課題", 日本地理学会秋季学術大会, 三重大学, 2017年9月.
- 菊地俊夫, "里山を楽しむために一歩く, みる, きく, 学ぶ", 全国都市緑化はちおうじフェア (基調講演), 首都大学東京, 2017年9月.
- 菊地俊夫, "TAMA NEXT ファーマープログラムの効用", 地域共創科学研究センターネットワークミーティング 2017, 首都大学東京, 2017年12月.
- 菊地俊夫, "都市農地を考える", 小平プチ田舎シンポジウム (招待講演), 東京都小平市ルネこだいら, 2018年1月.
- 菊地俊夫, "産学連携による地域活性化の有意性", 東京都町村職員講演会 (招待講演), 東京都小平市中央公民ホール, 2018年1月.
- 菊地俊夫, "ジオパークと地域活性化", 下北ジオパーク 2018 研究発表会 (招待講演), 青森県むつ市プラザホテルむつ, 2018年2月.
- 菊地俊夫, "八王子における MICE の発展とそれが観光振興に果たす役割", 八王子市コンベンション協会シンポジウム (基調講演), 東京都八王子市クリエイティブホール, 2018年3月.
- 菊地俊夫, "トンブソン・カリブー地域における大規模牧畜農場の再編とそれにおともなう農村空間の商品化", 日本地理学会春季学術大会, 東京学芸大学, 2018年3月.
- 田林明・菊地俊夫, "カナダ・ブリティッシュコロンビア州における農村空間の商品化による都市-農村共生システム", 日本地理学会春季学術大会, 東京学芸大学, 2018年3月.
- 洪明真・太田慧・杉本興運・菊地俊夫, "明治期の上の地域における景観変遷-内国勸業博覧会の関わりから-", 日本地理学会春季学術大会, 東京学芸大学, 2018年3月.
- 兼子純・菊地俊夫・田林明, "カナダ・ブリティッシュコロン

ビア州のピースリバー地域における農村空間の商品化", 日本地理学会春季学術大会, 東京学芸大学, 2018年3月.

##### ■論文

- Saika U., and Kikuchi, T. (2017): Classification of Urban Parks and their Regional Characteristics in Dhaka City, Bangladesh. Journal of Environmental Science and Engineering, B 6, pp41-54.
- 太田慧・杉本興運・菊地俊夫・土居利光 (2017): 東京・上野地域における商業集積地の空間特性. 観光科学研究, 10, pp1-8.
- 高橋環太郎・菊地俊夫 (2017): 語学習得の目的で訪れる観光に対する需要-マルタ共和国を事例に-. 観光科学研究, 10, pp75-84.
- 西村圭太・杉本興運・菊地俊夫 (2018): コミュニティサイクル利用観光者の回遊行動特性-埼玉県川越市を事例に-. 観光研究, 29-2, pp1-13.
- 洪明真・太田慧・杉本興運・菊地俊夫 (2018): 江戸期の上野地域における行楽空間-歴史地理学からのアプローチ-. 観光科学研究, 11, pp35-43.
- 菊地俊夫, (2017): 川から広がる世界. EPTA (エプタ), 82, pp9-15.
- 菊地俊夫 (2017): 多摩地域の観光-観光資源としての里山-. 地図中心, 542, pp16-17.

##### ■図書・報告書

- 菊地俊夫 (2018): 『ツーリズムの地理学』二宮書店. 224 ページ.
- 矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明 (2018): 『地誌トピックス ローカリゼーション』朝倉書店. 160 ページ.
- 杉本興運・太田慧・菊地俊夫 (2017): 『昭和 39 年以降の上野地域の歴史の編纂』中間報告書.
- 田林明・菊地俊夫・矢ヶ崎典隆 (2018): 『カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究』科学研究費研究成果報告書. 141 ページ.

#### 沼田真也

##### ■口頭発表

- 保坂哲朗, 邸琳, 江口克之, 沼田真也 東京の都市公園における食品廃棄物に集まるアリ群集と持ち去り速度 札幌 2018年3月
- 山本彩華, 沼田真也, 保坂哲朗 潮干狩り場におけるアサリ資源管理の持続可能性 日本生態学会 札幌 2018年3月
- 内山貴久, 高木悦郎, 保坂哲朗, 沼田真也 20年前の宅地造成が現在のモグラ類の分布に与えた影響 日本生態学会 札幌 2018年3月
- 沼田真也 ツーリズム分野における生物多様性: 取り組みと課題 日本生態学会第65回シンポジウム「2030年における生物多様性政策の未来像」札幌 2018年3月

##### ■論文

- Mohamad Muslim H.F., Yahya N.A., Numata S., Hosaka T. (2018) Ethnic Differences in Satisfaction with the Attractiveness of

- Tropical Urban Parks. In: McLellan B. (eds) Sustainable Future for Human Security. Springer, Singapore. Pp147-159.
- 保坂哲朗, 沼田真也 (2017) 都市緑地と害虫・害獣被害の関係—「生物多様性社会」におけるペストコントロール Pest Control Tokyo. 72: 25-29
  - Hashim, M, Ito, S. S. Misbari, S. Numata, T. Hosaka, N. N. Yahya, S. Ahmad, M. Hossain (2017) Using fisher knowledge, mapping population, habitat suitability and risk for the conservation of dugongs in Johor Straits of Malaysia. Marine Policy. 78:18-25.
  - 保坂哲朗, 栗本美咲, 沼田真也 (2017) 日本の昆虫文化と昆虫ツーリズム 観光科学研究 10: 57-64
  - Mohamad Muslim, H. F., S. Numata, N. A. Yahya (2017) Development of Malaysian Homestay Tourism: A Review. International Journal of Tourism Science (観光科学研究) 10: 65-74
  - Hosaka, T., K. Sugimoto, S., Numata (2017) Effects of childhood experience with nature on tolerance of urban residents toward hornets and wild boars in Japan. PLoS ONE. 12(4): e0175243.
  - Widiyatno, M. Budiadi, Priyono S., Yohanes D.B.M.R., Sukirno D.P., Y. Hendro, T. Hosaka, S. Numata (2017) Changes in vegetation structure and soil nutrient status with fallow years of swidden agriculture in Central Kalimantan, Indonesia. Journal of Tropical Forest Science. 29:151-162.
  - Widiyatno, S. Indrioko, M. Na'iem, S. Purnomo, T. Hosaka, N. Tani, S. Numata, A. Matsumoto, and Y. Tsumura (2017) Effects of logging rotation in a lowland dipterocarp forest on mating system and gene flow in *Shorea parvifolia*. Tree Genetics & Genomes. doi:10.1007/s11295-017-1167-3
  - Hosaka, T., K. Sugimoto. & S. Numata (2017) Childhood experience of nature influences the willingness to coexist with biodiversity in cities. Palgrave Communications.3:17071 doi: 10.1057/palcomms.2017.71.
  - Chen Y. Y., A. Satake, I. F. Sun, Y. Kosugi, M. Tani, S. Numata, S. P. Hubbell, C. Fletcher, N. S. Md. Noor, S. J. Wright (2017) Species-specific flowering cues among general flowering *Shorea* species at the Pasoh Research Forest, Malaysia. Journal of Ecology. DOI: 10.1111/1365-2745.12836
  - Mohamad Muslim, H. F., T. Hosaka, S. Numata, N. A. Yahya (2017) Nature-related experience during childhood in Urban and Rural Areas: the case of Peninsular Malaysians. Urban Studies Research. 2017. 7349219,
  - Yeoh, S. H., A. Satake, S. Numata, T. Ichie, S. L. Lee, N. Basherudin, N. Muhammad, T. Kondo, T. Otani, M. Hashim, N. Tani (2017) Unraveling proximate cues and timing of mass flowering in the tropical forests of Southeast Asia from gene expression analyses. Molecular Ecology. DOI: 10.1111/mec.14257
  - Numata, S., Kachi, N., Okuda, T. & Manokaran, N. (2017) Distance- and density-dependent leaf dynamics of seedlings of a tropical rainforest tree. Oecologia. 185: 213-220. DOI: 10.1007/s00442-017-3935-z
  - Cao, L., K. Fukumori, T. Hosaka, S. Numata, M. Hashim, T. Kosaki (2018) The distribution of an invasive species, *Clidemia hirta* along roads and trails in Endau Rompin National Park, Malaysia. Tropical Conservation Science. 11: 1940082917752818. DOI: 10.1177/1940082917752818
  - Mahmud, M. R., M. Hashim, S. Numata, T. Hosaka, T. and H. Matsuyama, H. (in press) Spatial downscaling of satellite precipitation data in humid tropics using site specific seasonal co-efficient. Water.
- 図書・報告書
- 沼田真也・保坂哲朗・高木悦郎 (2018) : マレーシアの熱帯雨林における野生生物とサステイナブルツーリズム ,pp. 178-189. 菊地俊夫 (編) 『ツーリズムの地理学』, 二宮書店
  - Numata, S. & Hosaka, T. (2018) The Current Status and Prospects for Biodiversity in Tokyo. Tokyo as a global city: New Geographical Perspectives. in T Kikuchi and T. Sugai (eds), Springer Singapore.
- 杉本興運
- 口頭発表
- 小池拓矢・杉本興運・太田慧, 若者によるアニメに関連した観光・レジャーの特徴と多様性. 2018年日本地理学会春季学術大会, 小金井(東京学芸大学), 2018年3月23日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 上原明・杉本興運, 若者による東京大都市圏のイメージとその魅力. 2018年日本地理学会春季学術大会, 小金井(東京学芸大学), 2018年3月23日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 杉本興運, 若者による活動種別の観光・レジャー特性—東京大都市圏を対象としたWebアンケート調査より—. 2018年日本地理学会春季学術大会, 小金井(東京学芸大学), 2018年3月23日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 杉本興運, 若者×観光×地理学—大都市の若者に見るオルタナティブな観光・レジャーの可能性—. 2018年日本地理学会春季学術大会, 小金井(東京学芸大学), 2018年3月23日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 杉本興運, 若者の観光行動と地域受容基盤に関する研究—研究成果報告—. 日本観光研究学会 研究懇話会, 池袋(立教大学), 2018年1月26日, 口頭発表.
  - 杉本興運・菊地俊夫, 知多半島におけるインバウンド観光の現状と課題. 2017年日本地理学会秋季学術大会, 津(三重大学), 2017年9月30日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 菊地俊夫・杉本興運・太田慧, 上野プロジェクト2016年度の中間報告. 成果報告会, 上野観光連盟, 2017年8月7日, 口頭発表.
  - 杉本興運, 東京を中心とした若者の日帰り観光行動の時間的・空間的特性. 第10回地理空間学会大会, 東京(筑波大学東京キャンパス文京校舎), 2017年7月1日, 口頭発表.(シンポジウム)
  - 杉本興運, 若者による観光・レジャーの特徴と研究動向. 第

10回地理空間学会大会,東京(筑波大学東京キャンパス文京校舎),2017年7月1日,口頭発表。(シンポジウム)

- 杉本興運,シンガポールにおける観光・MICEの発展.第10回地理空間学会大会,東京(筑波大学東京キャンパス文京校舎),2017年7月1日,口頭発表.

#### ■論文

- 西村圭太・杉本興運・菊地俊夫(2018):コミュニティサイクル利用観光者の回遊行動特性—埼玉県川越市を事例に—.観光研究,29(2).印刷中
- 洪明真・太田慧・杉本興運・菊地俊夫(2018):江戸期の上野地域における行楽空間—歴史地理学からのアプローチ—.観光科学研究,11:pp.35-43.
- 杉本興運(2018):若者に着目した観光・レジャー研究の成果と今後の課題.地理空間,10(3):pp.195.
- 磯野巧・杉本興運・飯塚遼・池田真利子・小池拓也・太田慧(2018):東京都における訪日教育旅行の地域的特性—受入態勢と外国人児童生徒の観光行動の分析を通して—.地理空間,10(3):pp.180-194.
- 太田慧・杉本興運・上原明・池田真利子・飯塚遼・磯野巧・小池拓矢(2018):東京におけるナイトクルーズの集客戦略と存在形態—東京湾納涼船における若者の利用特性—.地理空間,10(3):pp.165-179.
- 池田真利子・卯田卓矢・磯野巧・杉本興運・太田慧・小池拓矢・飯塚遼(2018):東京におけるナイトライブ観光の特性—夜間音楽観光資源としてのクラブ・ライブハウスに着目して—.地理空間,10(3):pp.149-164.
- 飯塚遼・太田慧・池田真利子・小池拓矢・磯野巧・杉本興運(2018):東京大都市圏におけるクラフトビールイベントの展開と若者観光.地理空間,10(3):pp.140-148.
- 小池拓矢・杉本興運・太田慧・池田真利子・飯塚遼・磯野巧(2018):東京大都市圏における若者のアニメに関連した観光・レジャーの特性.地理空間,10(3):pp.125-139.
- 杉本興運(2018):大都市・東京を中心とした若者の観光・レジャーの行動と空間.地理空間,10(3):pp.123-124.
- 杉本興運(2017):東京大都市圏における若者の日帰り観光・レジャーの時間的・空間的特性—大規模人流データによる分析—.地理空間,10(2):pp.51-66.
- 杉本興運(2017):シンガポールにおける観光とMICEの発展.E-journal GEO,12(2):246-260.
- Isono, T., Liu, J., Zhang, G., and Sugimoto, K. (2017): Regional Characteristics of International Educational Travel in Tokyo. Proceedings of the 12th Korea-China-Japan Joint & 3rd Asian Conference on Geography, 12: pp.48-52.
- Hosaka, T., Sugimoto, K., and Numata, T. (2017): Childhood experiences of nature influences the willingness to coexist with biodiversity in cities. Palgrave Communications, 3:17071 doi: 10.1057/palcomms.2017.71.
- 杉本興運(2017):イベント開催時における訪問者の目的地内移動パターン—東京都・上野公園でのフェスティバルを事例に—.観光研究,29(1):pp.17-28.

#### ■図書・報告書

- 杉本興運・磯野巧・飯塚遼・池田真利子・太田慧・小池拓矢・上原明(2018):若者観光と地域受容基盤に関する研究 最終報告—2017年度の活動を中心に—.観光研究,29(2).印刷中
- 杉本興運(2018):若者×観光×地理学—大都市の若者にみるオルタナティブな観光・レジャーの可能性—,E-journalGEO,印刷中.
- 杉本興運・太田慧・菊地俊夫(2017):昭和39年以降の上野地域の歴史の編纂:中間報告書.
- 杉本興運(2018):国際都市ブリュッセルにおけるMICE.『ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力—』,p.50-61,二宮書店.
- 杉本興運(2018):外国人の集まる国際観光拠点シンガポール.『地誌トピックス 2.ローカリゼーション—地域へのこだわり—』,p.24-33,朝倉書店.

#### 高木悦郎

##### ■口頭発表

- 高木悦郎,トドマツノキクイムシの加害木選好性,日本生態学会,札幌コンベンションセンター,2018年3月
- 内山貴久・高木悦郎・保坂哲朗・沼田真也,20年前の宅地造成が現在のモグラ類の分布に与えた影響,第65回日本生態学会大会,札幌コンベンションセンター,2018年3月
- 高木悦郎,トドマツノキクイムシの加害木選好性とその地理的変異,第129回日本森林学会大会,高知大学,2018年3月

##### ■論文

- 正木大祐・長岡講二・高木悦郎(2017)野生哺乳動物の餌としてのブナの堅果量推定—長野県上田市菅平高原の小規模ブナ天然林におけるブナ結実状況,環動昆,28,79-85.

##### ■図書・報告書

- 沼田真也,保坂哲朗,高木悦郎.2018.マレーシアの熱帯雨林における野生生物とサステイナブルツーリズム. Pp. 178-189. 菊地俊夫(編著)ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力. 二宮書店.

#### 保坂哲朗

##### ■口頭発表

- 保坂哲朗・邱琳・江口克之・沼田真也,東京の都市公園における食品廃棄物に集まるアリ群集と持ち去り速度,第65回日本生態学会,札幌コンベンションセンター,2018年3月14日~18日.
- 内山貴久・高木悦郎・保坂哲朗・沼田真也,20年前の宅地造成が現在のモグラ類の分布に与えた影響,第65回日本生態学会,札幌コンベンションセンター,2018年3月14日~18日.
- 山本彩華・沼田真也・保坂哲朗,潮干狩り場におけるアサリ資源管理の持続可能性,第65回日本生態学会,札幌コンベンションセンター,2018年3月14日~18日.
- 保坂哲朗,種子食昆虫は非一斉開花期をいかに生き延びる



のか? , 第 27 回日本熱帯生態学会, 鹿児島県奄美文化センター, 2017 年 6 月 16 日～18 日.

#### ■論文

- Mahmud, M. R., Hashim, M., Numata, S., Hosaka, T., Matsuyama, H. 2018. Spatial downscaling of satellite precipitation data in humid tropics using site specific seasonal co-efficient. *Water* 10: 409.
- Cao, L., Fukumori, K., Hosaka, T., Numata, S., Hashim, M., Kosaki, T. 2018. The distribution of an invasive species, *Clidemia hirta*, along roads and trails in Endau Rompin National Park, Malaysia. *Tropical Conservation Science* 11: 1-9.
- Mohamad, M. H. F., Hosaka, T., Numata, S., Yahya, N. A. 2017. Nature-related experiences during childhood in urban and rural areas: the case of Peninsular Malaysia. *Urban Studies Research* 2017: 7349219.
- Hosaka, T., Sugimoto, K., Numata, S. 2017. Childhood experience of nature influences the willingness to coexist with biodiversity in cities. *Palgrave Communications* 3: 17071.
- Widiyatno, Indrioko, S., Na'iem, M., Purnomo, S., Hosaka, T., Uchiyama, K., Tani, N., Numata, S., Matsumoto, A., Tsumura, Y. 2017. Effects of logging rotation in a lowland dipterocarp forest on mating system and gene flow in *Shorea parvifolia*. *Tree Genetics & Genomes* 13: 85.
- Hosaka, T., Sugimoto, K., Numata, S. 2017. Effects of childhood experience with nature on tolerance of urban residents toward hornets and wild boars in Japan. *PLOS ONE* 12: e0175243.
- 斎藤 昌幸・金子 弥生・増田 隆一・園田 陽一・保坂 哲朗 (2017): 都市における食肉目動物研究, 哺乳類科学, 57(1), pp.157-158.

#### ■図書・報告書

- 沼田真也, 保坂哲朗, 高木悦郎. 2018. マレーシアの熱帯雨林における野生生物とサステナブルツーリズム. Pp. 178-189. 菊地俊夫 (編著) ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力. 二宮書店.
- Mohamad, M. H. F., Yahya, N. A., Numata, S., Hosaka, T. 2018. Ethnic differences in satisfaction with the attractiveness of tropical urban parks. In *Sustainable Future for Human Security—Society, Cities and Governance*. McLellan (ed), Springer Nature, Singapore.
- Numata, S., Hosaka, T. 2018. Current status and perspectives of biodiversity in Tokyo. Pp. 53-68. In *Tokyo: New Geographical Perspectives*. Kikuchi, T., Sugai, T. (eds), Springer Japan, Tokyo.
- 保坂哲朗. 人と生物多様性が共存するには—幼少期の自然体験と不快生物に対する受容性の関係. *academist Journal* 2017 年 5 月 15 日付.

### ラナウィーラゲ エランガ

#### ■図書・報告書

- Ranaweera E. 2018. スリランカの国立公園における野生動物と観光の共生. in Kikuchi T. (Ed.), *ツーリズムの地理学: 観光*

から考える地域の魅力. *Ninomiya-shoten, Tokyo*, pp.156-165.

### 太田慧

#### ■口頭発表

- 太田慧, 東京におけるナイトクルーズの展開と若者の集客戦略, 地理空間学会「シンポジウム: 大都市における若者の観光・レジャーの行動と空間」, 筑波大学, 2017 年 7 月
- 太田慧・菊地俊夫, 東京・小平市における購買行動の地域特性. 日本地理学会秋季学術大会, 三重大学, 2017 年 9 月
- 太田慧・池田真利子・飯塚遼, 若者によるナイトライフ観光の利用特性—東京湾納涼船の利用者アンケートの結果からの考察—, 日本地理学会春季学術大会, 東京学芸大学, 2018 年 3 月

#### ■論文

- 小池拓矢・杉本興運・太田慧・池田真利子・飯塚遼・磯野巧 (2017): 東京大都市圏における若者のアニメに関連した観光・レジャーの特性. *地理空間*, 10 (3), pp.125-139.
- 飯塚遼・太田慧・池田真利子・小池拓矢・磯野巧・杉本興運 (2017): 東京大都市圏におけるクラフトビールイベントの展開と若者観光. *地理空間*, 10 (3), pp.140-148.
- 池田真利子・伊田卓矢・磯野巧・杉本興運・太田慧・小池拓矢・飯塚遼 (2017): 東京におけるナイトライフ観光の特性—夜間音楽観光資源としてのクラブ・ライブハウスに着目して—. *地理空間*, 10 (3), pp.149-164.
- 太田慧・杉本興運・上原明・池田真利子・飯塚遼・磯野巧・小池拓矢 (2017): 東京におけるナイトクルーズの集客戦略と存立形態—東京湾納涼船における若者の利用特性—. *地理空間*, 10 (3), pp.165-179.
- 磯野巧・杉本興運・飯塚遼・池田真利子・小池拓也・太田慧 (2017): 東京都における訪日教育旅行の地域的特性—受入態勢と外国人児童生徒の観光行動の分析を通して—. *地理空間*, 10 (3), pp.180-194.
- 洪明真・太田慧・杉本興運・菊地俊夫 (2018): 江戸期の上野地域における行楽空間—歴史地理学からのアプローチ—. *観光科学研究*, 11, pp.35-43.

#### ■図書・報告書

- 太田慧 (2018): 東京・隅田川における河川交通の変遷と観光の可能性: 菊地俊夫編. *ツーリズムの地理学: 観光から考える地域の魅力*, 二宮書店, pp.28-39.

## 3.2 文化ツーリズム領域

### 清水哲夫

#### ■口頭発表

- 栗原剛, 清水哲夫, 崔善鏡, 鎌田裕美: わが国の観光統計の現状と課題, 運輸総合研究所第 41 回研究報告会, 東京, 2017.5
- 佐藤史康, 片桐由希子, 清水哲夫: プローブデータを活用した訪日外国人の都市間の移動時特性の分析, 第 55 回土木計画学

- 研究発表会, 松山, 2017.6
- ・ 那須和生, 清水哲夫, 片桐由希子: 幹線交通の距離抵抗が観光地の入込客数や宿泊者数に及ぼす影響の分析～モバイル空間統計を活用した方法の提案, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ 清水哲夫, 川原晋, 稲家雅斗, 賀佳恵, 永島 奨之, 竹本佳文, 西浦明子: ICT を活用した高尾山地区駐車場マネジメントシステムの考え方とその試行実験, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ 吉田正, 清水哲夫: 自動運転を利活用した交通まちづくりに資する道路の研究, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ 葛西誠, 清水哲夫, 吉田正, 中島敬介: 地域の真のニーズに立脚した ITS 技術開発に向けて, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ 片桐由希子, 清水哲夫, 友森宏樹, 竹本佳文: 観光科学 PBL を通じた滞在型都市観光をサポートする地域公共交通の提案ー東京文化資源区を対象として, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ 相尚寿, 清水哲夫, 吉田正: ETC-OD マッチングデータを用いた首都圏高速道路ネットワークにおける経路選択行動および時間価値の詳細分析, 第 55 回土木計画学研究発表会, 松山, 2017.6
  - ・ Shimizu, T.: Intelligent Transport System for Traffic Safety – Japanese Experience, International Symposium on Road Safety in Thailand, Bangkok, 2017.9
  - ・ Nabila, G. and Shimizu, T.: Model Development of Pedestrian Satisfaction Index for Street Evaluation by Traffic and Non-Traffic Functions in Tourism Area, 12th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies, Ho Chi Minh City, 2017.9
  - ・ Nguyen, V. T. and Shimizu, T.: Input-Output Table for Transportation and Tourism Analysis: Construction and Applications, 12th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies, Ho Chi Minh City, 2017.9
  - ・ 九鬼令和, 清水哲夫: 地方における国際・国内航空便等による外国人(中国, 韓国, 台湾) 延べ宿泊者数に対する影響についての調査研究, 日本交通学会第 76 回研究報告会, 和歌山, 2017.10
  - ・ Safizahanin, M., Shimizu, T. and Norhazliza, H.: A Structural Relationship between Driving Satisfaction and Overall Tourist Satisfaction, 14th International Congress of Asian Planning Schools Association, Beijing, 2017.10.
  - ・ 清水哲夫: 都市化の未来: 都市化とモビリティー, Future Mobility Summit, 東京, 2017.10
  - ・ Shimizu, T.: Traffic flow analyses toward appropriate toll setting in urban expressway network, ITS World Congress 2017, Montreal, 2017.11
  - ・ 清水哲夫, 川原晋, 片桐由希子: 観光地における事前予約制駐車場利用に対する料金支払意思額の特性分析～高尾山地区における観光地マネジメント構想をサポートする駐車場マネジメントシステムの実現に向けて, 第 52 回日本都市計画学会学術研究論文発表会, 札幌, 2017.11
  - ・ 清水哲夫: グローバル時代の地方活性化を考える～インバウンド(観光)とアウトバウンド(都市輸出)を両輪として, 第 52 回日本都市計画学会学術研究論文発表会ワークショップ, 札幌, 2017.11
  - ・ 栗原剛, 清水哲夫, 崔善鏡, 鎌田裕美: 地域観光組織による観光統計・データの利活用の実態と施策ニーズとの整合性, 運輸総合研究所第 42 回研究報告会, 東京, 2017.11
  - ・ Ikeda, T., Matsuda, T., Kanto, M., Hagiwara, T., Takahashi, K. and Shimizu, T.: New road improvement planning process for safe and smooth traffic on winter roads through communication with local residents, 15th International Winter Road Congress of the Permanent International Association of Road Congresses, Gdansk, 2018.2
- 論文
- ・ 清水哲夫, 川原晋, 片桐由希子: 観光地における事前予約制駐車場利用に対する料金支払意思額の特性分析～高尾山地区における観光地マネジメント構想をサポートする駐車場マネジメントシステムの実現に向けて, 都市計画論文集, Vol.52, No.3, pp.782-787, 2017.
  - ・ Nguyen, V. T. and Shimizu, T.: The effect of transportation on tourism production – Literature review on application of the Computable General Equilibrium (CGE) model, Transportation Research Procedia, Vol. 25, pp.3096-3115, 2017.
  - ・ 佐藤史康, 片桐由希子, 清水哲夫: プローブデータを活用した訪日外国人の都市間の移動時特性の分析, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 那須和生, 清水哲夫, 片桐由希子: 幹線交通の距離抵抗が観光地の入込客数や宿泊者数に及ぼす影響の分析～モバイル空間統計を活用した方法の提案, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 清水哲夫, 川原晋, 稲家雅斗, 賀佳恵, 永島 奨之, 竹本佳文, 西浦明子: ICT を活用した高尾山地区駐車場マネジメントシステムの考え方とその試行実験, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 吉田正, 清水哲夫: 自動運転を利活用した交通まちづくりに資する道路の研究, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 葛西誠, 清水哲夫, 吉田正, 中島敬介: 地域の真のニーズに立脚した ITS 技術開発に向けて, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 片桐由希子, 清水哲夫, 友森宏樹, 竹本佳文: 観光科学 PBL を通じた滞在型都市観光をサポートする地域公共交通の提案ー東京文化資源区を対象として, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 相尚寿, 清水哲夫, 吉田正: ETC-OD マッチングデータを用いた首都圏高速道路ネットワークにおける経路選択行動および時間価値の詳細分析, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.
  - ・ 清水哲夫: 交通を巡る地域コミュニティと観光のコンフリクトを考察する, 都市計画, Vol.66, No.6, pp.46-49, 2017.

- ・清水哲夫:DMO成功の秘訣⑤,観光経済新聞2第2915号(2017年11月11日),2017.
- ・清水哲夫:これからの観光に求められる人材とその育成,観光とまちづくり, No.529, pp.14-16, 2017.
- ・清水哲夫:統計・ビッグデータを観光施策にどう生かすか,Travel Journal 2017年12月4日号,pp.38-40, 2017.

#### ■図書・報告書

- ・日本の観光を担う次世代リーダーへ(分担),観光経営トップ層のためのデータ論,pp.79-93,公益社団法人日本観光振興協会,2018.
- ・初めて学ぶ都市計画第二版(分担),第6章:都市の再生と交通システム,pp.65-76,市ヶ谷出版社,2018.

### 川原晋

#### ■口頭発表

- ・川原晋,賀佳恵,永島奨之「民間駐車場の地域総合型ウェブ予約システムの導入による観光地マネジメントの試行 - 高尾山周辺地区の交通渋滞緩和と観光まちづくり資金の形成を目指して」,日本建築学会大会,広島大,学術講演梗概集2017(都市計画),pp.89-92(選抜梗概),2017.08
- ・川端南実希,川原晋,平田徳恵「まち・ひと・しごと創生総合戦略における観光関連評価指標の傾向に関する研究」,日本建築学会大会,広島大,学術講演梗概集2017(都市計画),pp.101-104,2017.08
- ・清水哲夫,川原晋,稲家雅斗,賀佳恵,永島奨之,竹本佳文,西浦明子「ICTを活用した高尾山地区駐車場マネジメントシステムの考え方とその試行実験」,第55回土木計画学研究発表会,松山,2017.6

#### ■論文

- ・川原晋,賀佳恵,永島奨之「民間駐車場の地域総合型ウェブ予約システムの導入による観光地マネジメントの試行 - 高尾山周辺地区の交通渋滞緩和と観光まちづくり資金の形成を目指して」,日本建築学会大会学術講演梗概集2017(都市計画),pp.89-92(選抜梗概),2017.08
- ・清水哲夫,川原晋,片桐由希子(2017)「観光地における事前予約制駐車場利用に対する料金支払意思額の特性分析」,都市計画論文集52(3),pp.782-787,2017.11
- ・李ヨンオン,川原晋(2018)「東・東南アジアにおけるコワーキングスペースの特徴に関する研究 - 事業目的と立地都市の状況に着目して～」,観光科学研究,第11号,pp.1-8,2018.03
- ・岡田愛,川原晋(2018)「作業を対価とする滞在システムを利用する訪日外国人とホスト及び地域の関わり方に関する研究 - 日本におけるWWOOFの事例を中心にして-」,観光科学研究,第11号,pp.9-18,2018.03
- ・賀佳恵,川原晋,岡村祐(2018)「歴史的町並み地区における外部資本店舗の進出と地域受容に関する研究 - 観光地化する川越の重要伝統的建造物群保存地区を事例に-」,観光科学研究,第11号,pp.19-26,2018.03
- ・川原晋「人口減少社会における観光まちづくりの可能性と進

め方」,都市計画 vol.66 No.6 329号,(特集 人口減少社会を救う「観光まちづくり」) pp.10-13,2017.11

#### ■図書・報告書

- ・長門湯本温泉景観ガイドライン,山口県長門市(2018.03)

#### ■作品

第34回全国都市緑化はちおうじフェア 学生ガーデン「Machiniwa」出展,作品名「た・ま・て・ば・こガーデン」,観光科学域観光まちづくり有志チーム,2017.09-10

### 岡村祐

#### ■口頭発表

- ・Yujia Liu and Yu Okamura (2017): Cultural Landscape Preservation of Traditional Settlements from the Viewpoint of the Relationship between Clans and Traditional Ceramic Industries, Yaotou, Shaanxi Province, China. 14th International Congress of Asian Planning Schools Association (APSA), Tsinghua University, 2017.10
- ・山寄一也・岡村祐(2017):「ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける競技会場を利用したシティプロモーション戦略 グリニッジ馬術会場の例」,日本建築学会大会学術講演会,広島工業,2017年8月
- ・劉羽佳・岡村祐(2017):「窠業と宗族文化の関係性からみた中国陝西省堯頭村の文化的景観に関する研究」,日本建築学会大会学術講演会,広島工業大学,2017年8月
- ・T. Ishimoto, Y. Okamura, K. Eguchi (2017): Landscape Conservation Policy and Tourism Developments in the Traditional Settlement of Oia, Santorini Island, Greece. Proceedings of the International Conference on "Changing Cities", Syros, Greece, Jun. 2017.
- ・Y. Okamura, T. Nohara and A. Tanaka (2017): Resource characteristics of architecture in Open House initiatives. Proceedings of the International Conference on "Changing Cities", Syros, Greece, Jun. 2017.
- ・片桐由希子・岡村祐(2017):「東京市・東京鉄道局による「市民健康路」事業の展開」,日本造園学会研究発表会,日本大学生物資源学部湘南キャンパス,神奈川県藤沢市,2017年5月

#### ■論文

- ・片桐由希子・岡村祐(2017):「東京市・東京鉄道局による「市民健康路」事業の展開」,ランドスケープ研究,80-5,pp.493-497
- ・山寄一也・岡村祐(2017):「ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける競技会場を利用したシティプロモーション戦略 グリニッジ馬術会場の例」,日本建築学会大会学術講演梗概集,F-1,pp.97-100
- ・劉羽佳・岡村祐(2017):「窠業と宗族文化の関係性からみた中国陝西省堯頭村の文化的景観に関する研究」,日本建築学会大会学術講演梗概集,F-1,pp.681-682
- ・T. Ishimoto, Y. Okamura, K. Eguchi (2017): Landscape Conservation Policy and Tourism Developments in the Traditional Settlement of Oia, Santorini Island, Greece.

Proceedings of the International Conference on "Changing Cities"

- ・ Y. Okamura, T. Nohara and A. Tanaka (2017): Resource characteristics of architecture in Open House initiatives. Proceedings of the International Conference on "Changing Cities"
- ・ 賀佳恵・川原晋・岡村祐 (2018): 歴史的町並み地区における外部資本店舗の進出と地域受容に関する研究 - 観光地化する川越の重要伝統的建造物群保存地区を事例に - 観光科学研究, No.11

#### ■図書・報告書

- ・ (編著書) オープンシティ研究会・岡村祐・野原卓・田中暁子 著: 『まちをひらく技術 - 建物・暮らし・なりわい - 地域資源の一斉公開』, 学芸出版社, 2017年9月
- ・ (共著書) 伊藤守・小泉秀樹他編: 『コミュニティ事典』, 春風社, 2017年6月 「観光まちづくり」の項を執筆

### 片桐由希子

#### ■口頭発表

- ・ 緑地としての寺院と都市空間の関係性に関する研究 (その1) - 台東区谷中地区を対象として, 2017年度日本建築学会全国大会, 土井祥子・片桐由希子 2017.9.2(広島工業大学)
- ・ 片桐由希子・清水哲夫・友森宏樹・竹本佳文 (2017): 観光科学 PBL を通じた滞在型都市観光をサポートする地域公共交通の提案 - 東京文化資源区を対象として, No.55(CD-ROM), 2017.06.10(愛媛大学)
- ・ 佐藤史康・片桐由希子・清水哲夫 (2017): プローブデータを活用した訪日外国人の都市間の移動時特性の分析, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.06.10(愛媛大学)
- ・ 那須和生・片桐由希子・清水哲夫 (2017): 幹線交通の距離抵抗が観光地の入込客数や宿泊者数に及ぼす影響の分析〜モバイル空間統計を活用した方法の提案, 土木計画学研究・講演集, No.55(CD-ROM), 2017.06.10(愛媛大学)
- ・ 宮本隆史・片桐由希子・中村覚 (2018): 地域文化資源デジタルアーカイブの方法論: 地域雑誌『谷中・根津・千駄木』のデジタルアーカイブ化を事例として, 2017.3.10, デジタルアーカイブ学会第2回研究大会(東京大学)

#### ■論文

- ・ 清水 哲夫・川原 晋・片桐 由希子 (2017): 観光地における事前予約制駐車場利用に対する料金支払意思額の特性分析, 都市計画論文集 52(3), 782-787

#### ■図書・報告書

- ・ 真鍋陸太郎・片桐由希子 (2017): 地域文化資源としての地図の生み出すもの (特集: 地図がつなぐ複層のランドスケープ), 日本造園学会誌ランドスケープ研究 81(1), 34-37
- ・ 片桐由希子 (2018): 『造園雑誌』にみる観光地開発と郷土風景の価値 (連載: 造園雑誌アーカイブス), 日本造園学会誌ランドスケープ研究 82(4), 264
- ・ 片桐由希子 (2017): 流域から展望する 東京 2060 のランドスケープ, 復興デザインスタジオ: 災害復興の提案と実践,

東京大学復興デザイン研究体 編集, 東京大学出版会, pp.154-157, 2017年11月

- ・ 片桐由希子 (2017): 水と緑のまちづくり, コミュニティー辞典: 伊藤守・小泉秀樹他 編集, 春風社, pp 398-399 2017年7月

### 野田満

#### ■口頭発表

- ・ 野田満: 中山間地域における小学生の習いごとに関する基礎的研究, 日本建築学会関東支部発表会優秀研究報告集 (掲載決定), 2018.03

#### ■図書・報告書

- ・ 持続可能な地域社会総合研究所: 平成 29 年度 「低炭素・循環・自然共生の環境施策の実施による地域の経済・社会への効果の評価について」 研究報告書, 2018.03

### 古川尚彬

#### ■口頭発表

- ・ 『ベトナム中部グエン朝歴代皇帝陵における伝統的水利システムの再生』○平井幸弘・佐藤滋・古川尚彬・川原晋・田中滋夫 日本地理学会春季学術大会 2018年3月
- ・ 『嘉隆帝陵周辺の水田管理を担う集落の特徴と実態 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (23)』 ○中西美裕・寺澤裕実子・古川尚彬・佐藤滋 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国) p857-858 2017年9月
- ・ 『嘉隆帝陵の参拝経路における空間特性と周辺集落による管理の実態 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (22)』 ○寺澤裕実子・中西美裕・古川尚彬・佐藤滋 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国) p855-856 2017年9月

#### ■図書・報告書

- ・ "On the Characteristics and the Potentials of Cultural Landscape and Traditional Water System designed in the peripheries of Nguyen Imperial Tombs" N.Furukawa, International Symposium on Sustainable Management and Appropriate Utilization of the Cultural Landscape and Historical-Eco System at Royal Tombs of Nguyen Dynasty and Huong River's Upstream Region, Hue-Vietnam, March 20, 2018
- ・ 『まちづくり図解』佐藤滋編 鹿島出版会 2017年 ※著者連名

### 平田徳恵

#### ■口頭発表

- ・ 川端南実希・川原晋・平田徳恵: まち・ひと・しごと創生総合戦略における観光関連評価指標の傾向に関する研究, 日本建築学会 (近畿) 大会学術講演, 選抜梗概: オーガナイズドセッション, 2017年9月

#### ■論文

- ・ 清水哲夫・平田徳恵・川原晋 (2018): 自治体職員向け地域創

生事業立案研修プログラムの試行的開発～首都大学東京発「地域創生スクール」の試み～, 観光科学研究第 11 号

- ・川端南実希・川原晋・平田徳恵 (2017): まち・ひと・しごと創生総合戦略における観光関連評価指標の傾向に関する研究, 日本建築学会 (近畿) 大会学術講演梗概集, (選抜梗概: オーガナイズドセッション), pp.101-104.

#### ■図書・報告書

- ・公益社団法人 商業施設技術団体連合会 監修, 高柳 英明・飯田 有登 編『実践テキスト 店舗の企画・設計とデザイン』(平田徳恵ほか共著) オーム社, <https://www.ohmsha.co.jp/book/9784274221651/> (2017)
- ・(報告書) 新大都市リーディングプロジェクト「地域創生を支援する先端的研究クラスター構築および自治体研修プログラムの開発」編著: 清水哲夫, 平田徳恵 (2017)

### 3.3 観光政策・情報領域

#### 倉田陽平

##### ■口頭発表

- ・青池孝, ホーバック, 倉田陽平, 太田順, 原辰徳 (2017) 旅行者にとっての混雑問題に対話的に取り組む旅行計画支援, 観光情報学会第 16 回研究発表会, 鳥取, 2017 年 11 月, 5-8
- ・DESTINATION・マーケティングにおけるソーシャルメディアの役割に関する一考察. 観光情報学会第 16 回観光情報学会第 16 回研究発表会, 鳥取, 2017 年 11 月
- ・藤井一輝・難波英嗣・竹澤寿幸・石野亜耶・奥村学・倉田陽平 (2017) 旅行者の行動分析のための旅行プログメントリの属性推定. 観光と情報, 13, 83-96.
- ・原辰徳・倉田陽平・Ho Quang Bach (2017) 観光プランニングサービスの基盤化と社会展開. 観光情報学会第 14 回全国大会, 静岡, 29-30, 2017 年 7 月.
- ・鈴木祥平・倉田陽平 (2017) Facebook で提供される観光情報へのリアクションの分析—閲覧者の感情に着目して—. 観光情報学会第 14 回全国大会, 静岡, 41-42, 2017 年 7 月.
- ・鈴木祥平・湯舟佑樹・宮坂涼・倉田陽平 (2017) 宿泊予約サイトにおいて夜間写真の果たす役割とは. 観光情報学会第 15 回研究発表会, 札幌, 2017 年 5 月.
- ・倉田陽平・真田風・鈴木祥平・石川博 (2017) Flickr と Google Cloud Vision API によりテーマ別観光マップを作る試み. DEIM2017, 高山, 2017 年 3 月.
- ・鈴木祥平・倉田陽平・石川博 (2017) Twitter のユーザプロフィールを用いた公式アカウントの検出とフォロー形成パターンの分析. DEIM2017, 高山, 2017 年 3 月.
- ・豊島花穂・倉田陽平 (2017) 災害時に観光客や訪日外国人にも対応可能なデジタルサイネージの放映フローとコンテンツの提案. 第 3 回とうかい観光情報学研究会, 浜松, 11-14, 2017 年 2 月.
- ・Shohei Suzuki and Yohei Kurata (2017) An Analysis of Tweets by Local Mascot Characters for Regional Promotions, called

Yuru-charas, and Their Followers in Japan. ENTER2017, Rome, 2017 年 1 月.

##### ■論文

- ・藤井一輝・難波英嗣・竹澤寿幸・石野亜耶・奥村学・倉田陽平 (2017) 旅行者の行動分析のための旅行プログメントリの属性推定. 観光と情報, 13, 83-96.
- ・鈴木祥平・倉田陽平 (2017) Twitter のユーザプロフィールを用いた観光地の特徴分析. 観光と情報, 13, 39-52.
- ・鈴木祥平・森本祥一・倉田陽平 (2017) 観光地の価値を高めるためのインターナル・マーケティング活動の検討. 観光科学研究 10(3), 31-38.
- ・Shohei Suzuki and Yohei Kurata (2017) An Analysis of Tweets by Local Mascot Characters for Regional Promotions, called Yuru-charas, and Their Followers in Japan(ゆるキャラと呼ばれる, 地域プロモーションのためのローカルマスコットキャラクターによるツイートとそのフォロワーの分析). ENTER2017, Rome, 2017 年 1 月.

##### ■図書・報告書

- ・Tatsunori Hara, Kazuhiro Aoyama, Yohei Kurata, and Naoto Yabe (2016) Service Design in Tourism: Encouraging a Cooperative Relationship Between Professional Design and Non-professional Design. in Stephen K. Kwan, James C. Spohrer, Yuriko Sawatani (Eds.) Global Perspectives on Service Science: Japan, 119-135.
- ・西野成昭, 原辰徳, 嶋田敏, 倉田陽平, 竹中毅 (2017) サービスを「設計する」とはどういうことか in 村上輝康・新井民夫・JST 社会技術開発研究センター編著 (2017) サービスロジーへの招待第 9 章, 東京大学出版会, 187-212, 2017 年 6 月.

#### 直井岳人

##### ■口頭発表

- ・中俣良太・直井岳人・飯島祥二, リスクを内包する自然資源を持つ観光地の誘客力のある写真の特性についての研究: 活火山「桜島」を調査対象物として 人間・環境学会 第 24 回大会 大阪工業大学 大阪市, 2017 年 5 月
- ・Nakamata, R., Naoi, T., & Iijima, S., Effects of touristic elements in photographs on potential visitors' evaluations of a volcano. Proceedings of 2017 Travel and Tourism Research Association (TTRA) Annual International Conference, Quebec City, Canada, 2017 年 6 月.
- ・Hiruta, T., Naoi, T., Iijima, S., & Uehara, A., Emotional labor in shopping districts: its relationship with cross-cultural adaptability, customer orientation, emotional exhaustion, and job satisfaction. Proceedings of the 7th Advances in Tourism Marketing (ATMC) Conference, Casablanca, Morocco, 2017 年 9 月
- ・Uehara, A., Naoi, T., & Iijima, S., Relationship between Streetscapes and Tourists' evaluation: A case of a shopping district. Proceedings of the 7th Advances in Tourism Marketing (ATMC) Conference, Casablanca, Morocco, 2017 年 9 月

- Uehara, A., Naoi, T., & Iijima, S., Relationship between perceived shops' servicescape and tourists' purchase intention: The case of a shopping district in Naha city. Proceedings of the 28th Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference, The University of Newcastle, Queensland, Australia, 2018年2月
- Nakamata, R., Naoi, T., & Iijima, S.. Potential visitors' evaluations of photographs of destinations with volcanoes and the effects of their past experiences with natural disasters. Proceedings of 2018 Travel and Tourism Research Association (TTRA) Annual International Conference, Miami, USA, 2018年6月(受理)
- Kawada, H., & Naoi, T., Defining factors of destination loyalty that are unrelated to tourist satisfaction: A review of preceding studies. Proceedings of Graduate Student Research Colloquium at 2018 Travel and Tourism Research Association (TTRA) Annual International Conference, Miami, USA, 2018年6月(受理)

#### ■論文

- Naoi, T., Sosghiroda, A., & Iijima, S. (2017年8月). Chapter 5: The gaze and objectives of townscape visitors, In. A. Decrop & A. G. Woodside (Eds.), Consumer Behavior in Tourism and Hospitality Research (Advances in Culture, Tourism and Hospitality
- 中俣良太・直井岳人・飯島祥二(2017年12月) 潜在的訪問客によるリスクを内包する自然資源を持つ観光地の画像の評価と彼らの個人特性の関係: 活火山「桜島」を調査対象物として 日本観光研究学会全国大会学術論文集, 32, 29-32.
- 宮田有理・山城健悟・直井岳人・飯島祥二(2018年2月) 商業空間の観光的特性と光環境の関係性に関する研究 日本建築学会東海支部研究報告集 第56号 環境工学 303 325-328

#### 本保芳明

##### ■論文

- 阿曾 真紀子・高澤由美・本保 芳明・矢ヶ崎紀子.2017. 観光経営トップセミナーの取組み, 観光科学研究, 10: 85-92.

#### 戸崎肇

##### ■口頭発表

- Possibility of AI and problems to be solved in solving the current social problems such as depopulation of rural areas and aging, "Society of Working Capacity Research", March, 2018

##### ■論文

- "Frontier of Public Policy," Chapter 8 "Airport and Auction", Seibundou, April 2017, thesis "Japan's Future Inbound Tourism Strategy in Hospitality and Improvement of its Infrastructure"(with peer review) "Industrial Integrated Research", Okinawa International University Research Institute

for Industrial Research, March 2018.

#### 阿曾真紀子

##### ■論文

- 阿曾 真紀子・高澤由美.2018. 観光経営トップセミナーの受講生のネットワーク形成, 観光科学研究, 11: 53-59.



## 4. 特定学術研究

### 4.1 自然ツーリズム領域

#### 菊地俊夫

- ・ 基盤研究 C (一般) : フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究 .. 平成 29 年～ 32 年度 (代表・採用)
- ・ 基盤研究 B (海外学術研究) : カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究. 平成 26～29 年度 (分担・採用)
- ・ 基盤研究 B (一般) : 日本におけるインバウンド・ツーリズムの発展に関する地理学的研究. 平成 27 年～ 29 年度 (分担・採用)
- ・ 上野観光連盟 : 上野地域の観光活性化プロジェクト, 上野の杜文化プロジェクト.
- ・ 東京都産業労働局観光部 : 東京における MICE の調査研究.
- ・ 東京都産業労働局農政部 : 東京における農地保全における市民農園・農業体験農園の役割に関する調査研究
- ・ 研究環 (首都大学東京) : 大都市圏のジェントリフィケーションの研究, 平成 29 - 31 年度 (代表)

#### 沼田真也

- ・ 文部科学省・専修学校による地域産業中核的人材養成事業 (プログラム開発委員, 検証委員) 「『&観光』新 6 次産業 (地場産業の連携) 中核的専門人材養成プログラムの開発」
- ・ 首都大学東京学長裁量枠国際共同研究支援枠 「東南アジアの自然地域における持続可能観光開発に関する研究」
- ・ 受託研究 ((株) プラントライフシステムズ, 学術相談)

#### 杉本興運

- ・ 科研費 若手研究 (B) : 観光行動の動態シミュレーションと地理的可視化の手法構築, 平成 27-29 年度 (代表)
- ・ 研究分科会活動経費 (日本観光研究学会) : 若者の観光行動と地域受容基盤に関する研究, 平成 28 - 29 年度 (代表)
- ・ 研究環 (首都大学東京) : 大都市圏のジェントリフィケーションの研究, 平成 29 - 31 年度 (分担)
- ・ 受託研究 (上野観光連盟) : 昭和 39 年以降の上野地域の歴史の編纂, 平成 27 - 29 年度 (分担)
- ・ ミニ研究環 (首都大学東京) : 若者の観光需要と潜在性の評価: 将来の観光産業の維持・発展に資する研究の拠点形成, 平成 30 年度 (代表) ※新規獲得
- ・ 受託研究 (台東区役所) : 上野駅周辺歩行者回遊行動調査, 平成 30 年度 (代表) ※新規獲得

#### 保坂哲朗

- ・ 科研費 若手研究 (B) : DNA バーコードを用いた東南アジア熱帯雨林の植物-種子食性昆虫の相互作用系の解明, 平成 26 - 29 年度 (代表)

### 4.2 文化ツーリズム領域

#### 清水哲夫

- ・ 平成 27～29 年度 : 基盤研究 (B) 「複数の観光交通データの統合的活用方法の開発と政策評価への展開」 (研究分担者)
- ・ 平成 28～30 年度 : 基盤研究 (B) 「ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言」 (研究代表者)
- ・ 国土交通省道路政策の質の向上に資する技術研究開発 「観光流動把握を目的とした交通流動推計システムの研究開発 (研究代表者 : 宇野伸宏京都大学教授)」 (研究分担者), 平成 29 年度
- ・ 東京都産業労働局観光部受入環境課委託事業 「観光経営人材育成事業」 (事業責任者), 平成 29 年度

#### 川原晋

- ・ 基盤 A 「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術 『地域観光プランニング』 の詳細化と実装化」 H29 年度採択, 研究代表者
- ・ 基盤 B 海外 「フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法」 H28 年度採択, 研究分担者 (研究代表者 : 佐藤滋 早稲田大学)
- ・ 基盤 B 「伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント」 H28 年度採択, 研究分担者 (研究代表者 : 岡崎篤行 新潟大学)
- ・ 基盤 C 「地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究」, H27 年度採択, 研究分担者 (研究代表者 : 野原卓 横浜国立大学)
- ・ 【受託研究 : 有限会社 N & S コミュニティアソシエイツ, 野村不動産】 「稲城南山倶楽部を母体とするまちづくり支援研究」 受託組織 : 川原晋研究室, H28.4 - H 30.3
- ・ 【受託研究 : 山口県長門市】 長門湯本温泉 観光まちづくり事業 景観デザインガイドライン策定・設計支援業務 (アルセッド建築研究所を中心とする専門家メンバーとして) H29.4 - H 30.3

#### 岡村祐

- ・ 基盤研究 (C) : 地域資源マネジメント手法としての 「資源一斉公開プログラム」 の有用性及び可能性, (代表 岡村祐), 研究代表者, H27-29
- ・ 基盤研究 (C) : ギリシャにおける伝統的集落の保存・再生事業と 『強い』 観光地形成の政策研究 (代表 奈良県立大学 石本東生), 研究分担者, H27-29



- ・ 基盤研究 (C) : 地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究 (代表 横浜国立大学 野原卓), 研究分担者, H27-29
- ・ 基盤研究 (B) : 伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント (代表 新潟大学 岡崎篤行), 研究分担者, H28-31
- ・ 基盤研究 (A) : ユネスコ「歴史的都市景観に関する勧告」後の都市経営戦略確立に関する研究 (代表 東京大学 西村幸夫), 研究分担者, H28-31
- ・ 基盤研究 (A) : 観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化 (代表 首都大学東京 川原晋), 研究分担者, H29-32

#### 片桐由希子

- ・ 科研費 基盤 (B) : 都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性 2018 年度～2020 年度 (分担者)
- ・ 科研費 基盤 (B) : 東アジア巨大都市における新自由主義型都市計画制度の成果と形成過程 2018 年度～2020 年度 (分担者)
- ・ 科研費 若手研究 (B) : 都市郊外部における公園緑地の管理運営に関する評価指標の設定と評価システムの構築 2017 年度～2019 年度 (代表)
- ・ 科研費 新学術領域 (領域提案型) : 緑 = 建築 = 水空間におけるグリーンインフラ 2016 年度～2020 年度 (分担者)
- ・ 科研費 基盤研究 (B) ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言 2016 年度～2020 年度 (分担者)

#### 野田満

- ・ 環境省 環境経済の政策研究 (第 III 期) : 低炭素・循環・自然共生の環境施策の実施による地域の経済・社会への効果の評価について (代表: 持続可能な地域社会総合研究所 藤山浩), 平成 27-29 年度 (分担)
- ・ 科研費 若手研究 B : 過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究: 今日の課題と活用プロセスの解明, 平成 29-30 年度 (代表)
- ・ 公益財団法人ロッテ財団 奨励研究助成: 過疎山間集落の「記憶の採集」による食文化史の解明と今日的活用に関する実践的研究, 平成 30-31 年度 (代表) ※新規獲得
- ・ 公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム (しらべる助成): 林道の観光ポテンシャル調査: 再び山と共に生きる為の里山資産の読み換え, 平成 30 年度 (プロジェクト統括支援) ※新規獲得

#### 古川尚彬

- ・ 科研費 若手研究 (B) : モンスーン地域を住みこなす親水居住の類型化を通じた集落更新モデルの構築 平成 27-29 年度 (代表)

- ・ 科研費 基盤研究 (B) : フェ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法 平成 28-30 年度 (分担)

#### 平田徳恵

- ・ 科研費 若手研究: 観光政策立案実践の為に自治体職員に必要となる専門スキル把握と教育プログラムの提案, 平成 30-32 年度 (代表)

### 4.3 観光政策・情報領域

#### 倉田陽平

- ・ 採択済: H28-H30 科学研究費補助金 基盤研究 (B) ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言 (分担, 代表: 清水哲夫, 今年度配分 60 万円)
- ・ 採択済: H26-H29 JST RISTEX 研究開発成果実装支援プログラム 旅行者と地域の共生に資する観光プラン作成支援技術の基盤化と社会実装 (分担, 代表: 原辰徳 (東大))

#### 直井岳人

- ・ 科学研究費基盤 C (代表者) 「歴史的町並みにおける外国人観光客・住民間交流と地域理解促進の関係の類型化」(交付内定: 平成 27 年度より 4 年間 [1 年延長])

## 5. 学生教育

### 5.1 所属学生

2017年度は学部生43名, 研究生1名, 大学院生50名の計94名(うち留学生は19名)が在籍した。

#### 学部生

4年生21名, 3年生22名が当コースに在籍した。本年度進級した3年生の分属前の所属については, 8名が都市環境学部地理環境コース, 1名が都市環境学部都市基盤系, 7名が都市教養学部人文社会系, 1名が都市教養学部経営学系, 3名が都市教養学部理工学系, 2名が編入学である。

#### 博士前期課程(修士課程)

修士課程1年10名(うち留学生1名), 修士課程2年13名(うち留学生2名)が当学域に在籍した。

#### 博士後期課程(博士課程)

研究生1名, 博士課程1年4名(うち留学生2名), 博士課程2年5名(うち留学生4名), 博士課程3年19名(うち留学生10名)が当学域に在籍した。

#### 留学生

上記のとおり, 留学生は修士課程3名, 博士課程16名の計19名である。出身国は下表のとおりである。

留学生の出身国の内訳

| 出身国     | 修士課程 | 博士課程 | 合計 |
|---------|------|------|----|
| 中国      | 3名   | 1名   | 4名 |
| 韓国      | 0名   | 1名   | 1名 |
| タイ      | 0名   | 2名   | 2名 |
| マレーシア   | 0名   | 4名   | 4名 |
| インドネシア  | 0名   | 3名   | 3名 |
| トルコ     | 0名   | 1名   | 1名 |
| ベトナム    | 0名   | 1名   | 1名 |
| バングラデシュ | 0名   | 1名   | 1名 |
| シンガポール  | 0名   | 1名   | 1名 |
| ネパール    | 0名   | 1名   | 1名 |

### 5.2 研究室への配属

4年生以上73名の学生の配属先研究室は下表のとおりである。

各研究室所属の学生数

| 領域    | 研究室   | 卒論生 | 修士課程 | 博士課程 | 計  |
|-------|-------|-----|------|------|----|
| 自然    | 菊地 俊夫 | 5   | 5    | 7    | 17 |
| 自然    | 沼田 真也 | 3   | 4    | 5    | 12 |
| 文化    | 清水 哲夫 | 2   | 4    | 10   | 16 |
| 文化    | 川原 晋  | 2   | 3    | 0    | 5  |
| 文化    | 岡村 祐  | 1   | 2    | 2    | 5  |
| 政策・情報 | 倉田 陽平 | 4   | 3    | 2    | 9  |
| 政策・情報 | 直井 岳人 | 4   | 2    | 3    | 9  |

### 5.3 学位論文

#### 博士論文

所定の審査を受け, 下表に示す7名の博士論文が合格した。

2017年度博士論文一覧

| 氏名                       | 論文タイトル  | 主査    |
|--------------------------|---|-------|
| Huda Farhana             | Childhood nature experience and public  | 沼田 真也 |
| Mohamad Muslim           | affective attitudes towards tropical urban biodiversity conservation  |       |
| K a n g M i n N g o      | Dynamics and sustainability of a tropical forest fragment surrounded by an urban sea : Findings from the Bukit Timah Nature Reserve, Singapore                                | 沼田 真也 |
| Nabila binti Abdul Ghani | A Study on Model Framework of Pedestrian Level of Service Assessment for Traffic and Non-Traffic Functions on Streets in Tourism Sites : A Case in Melaka, Malaysia           | 清水 哲夫 |
| Nguyen Van Truong        | A Study on Input-Output Model and Computable General Equilibrium (CGE) Model for Assessing Economic Impacts of Transportation Policies on Tourism Promotion : A Case of Japan | 清水 哲夫 |
| Saika Ummeh              | The Integration of Urban Life with the Hierarchical Structure of Urban Parks Distribution in Developing Countries : A Case Study of Dhaka City, Bangladesh                    | 菊地 俊夫 |
| 塩谷 英生                    | 自治体における観光自主財源の導入に関する研究 : 法定外税と協力金制度を中心に   | 清水 哲夫 |
| 鈴木 祥平                    | Twitter データを用いた観光対象に対する潜在的・顕在的関心の分析 : デスティネーション・マーケティングにおけるソーシャルメディアデータ活用の可能性   | 直井 岳人 |

#### 修士論文

所定の審査を受け, 下表に示す12名の修士論文が合格した。

2017年度修士論文一覧

| 氏名     | 論文タイトル  | 主査    |
|--------|---|-------|
| 太田 彩葉  | 東南アジア熱帯雨林の国立公園における野生哺乳類の出現パターン                                    | 沼田 真也 |
| 服部 陽太  | 動物園来園者の時系列的な行動分析  | 菊地 俊夫 |
| 永島 奨之  | 転用の有無に着目した漁業資産の継承に関する研究 : 観光地化が進む漁村・伊根浦集落を事例に                     | 川原 晋  |
| 竹本 佳文  | 観光地駐車場の事前予約および付帯サービスに対する価値のモデル推計 : 高尾山地区における駐車場事業のレベニューマネジメントに向けて | 清水 哲夫 |
| 藪内 友理  | 英国レスターにおける都市農地の発展とそのコミュニティ意識への寄与                                  | 菊地 俊夫 |
| 土屋 すみれ | 訪日外国人の参照情報と観光対象に対する流行意識の関係 : 渋谷スクランブル交差点を事例に                      | 直井 岳人 |
| 岳 嬉媛   | 訪日中国人観光客の旅行形態と購買行動の関係 : 団体・個人客及びガイド同行の有無の差                        | 直井 岳人 |

|       |  |       |
|-------|--|-------|
| 賀 佳恵  | 無形遺産としての伝統的商業の存続状況や要件と保全策について：世界遺産マレーシアのジョージタウンの遺産商業を事例として | 川原 晋  |
| 鍋島 和弘 | 参加者の全体評価を高めるエデュテイメントとしてのガイドの特性：価値共有を媒介変数にして                | 直井 岳人 |
| 彭 潔予  | アンテナショップを用いた地方と首都圏の交流促進に関する研究                              | 岡村 祐  |
| 友森 宏樹 | IC データを用いた都内路線バスにおける観光目的需要の抽出に関する研究                        | 清水 哲夫 |
| 宮坂 涼  | 宿泊施設が掲げる施設・サービス・ターゲットングコンセプトに関する研究                         | 直井 岳人 |

|       |   |       |
|-------|---|-------|
| 関谷 悠  | ナイトマーケットにおけるアクティビティの多様性とその空間的特徴：マレーシア・クアラルンプール近郊のナイトマーケットを事例として   | 岡村 祐  |
| 田中 涼  | 観光情報ミックスと観光地イメージの関係：英国在住非日本人が取得する情報と日本のイメージを事例として                 | 直井 岳人 |
| 木田 もも | 観光市の存立基盤：高知県高知市の「ひろめ市場」を事例にして                                     | 菊地 俊夫 |
| 横瀬 和也 | 都市間の国際航空路線の就航可能性についての評価モデルの開発                                     | 清水 哲夫 |
| 塚本 幸哲 | マレーシア人大学生の景観の好みおよび環境価値定位 (environmental value orientations) との関連性 | 沼田 真也 |

## 卒業論文

下表に示す 20 名が卒業論文を提出した。

2017 年度卒業論文の一覧

| 氏名     | 論文タイトル  | 主査    |
|--------|---|-------|
| 真嶋 唯   | ドイツにおける地ビール の地産地消に関する研究：バイエルン自由州・パイロイト独立市を事例に                 | 菊地 俊夫 |
| 立川 まゆみ | 観光地の二つの近接空間における混雑感と好ましさの規定要因                                  | 直井 岳人 |
| 中山 玲   | 京都府和東町における茶農家の経営分化とその要因                                       | 菊地 俊夫 |
| 新井 華奈子 | 乳幼児連れの親の観光施設訪問動機：自分・子供のための動機と施設の種類及び自身の子育てへの意識の関係             | 直井 岳人 |
| 中村 優里  | 全国都市緑化フェアがもたらすレガシーとその持続性について                                  | 川原 晋  |
| 村田 風十  | 休暇村ふれあいプログラムの発展と自然環境資源の利用方法：休暇村嬌恋鹿沢を事例にして                     | 菊地 俊夫 |
| 大内 泰紀  | 酒蔵ツーリズムの諸類型と発展：長野県諏訪市を事例として                                   | 菊地 俊夫 |
| 安田 詩菜  | 大学生の離島への訪問意向に影響を及ぼす動機：Pull, Push 要因の枠組みをもとに                   | 直井 岳人 |
| 小島 史也  | 訪日外国人観光客による訪問最終日の観光行動特性の分析：空際観光圏の提案に向けて                       | 清水 哲夫 |
| 甲田 亮輔  | 新宿ゴールデン街を訪れる外国人観光客の期待と店舗の歓迎意向別対応に関する研究                        | 川原 晋  |
| 内山 貴久  | 20 年前の宅地開発が現在のモグラ類分布に与えた影響                                    | 沼田 真也 |
| 前 奈津実  | 地域の音を使用した地図ウェブサイトの開発  | 菊地 俊夫 |
| 四百目 拓磨 | ゲーミフィケーション要素が含まれた周遊型観光における地域資源の利用と参加者の周遊行動について：フォトロゲイニングに着目して | 菊地 俊夫 |
| 大目 梨香子 | 訪問客による歴史的町並みにおける建物の印象評定：歴史的建物及び商店としての側面に着目した日本人大学生と外国人大学生の比較  | 直井 岳人 |
| 杉山 直之  | 幼少期の自然体験が大学生の自然に対する嫌悪や恐怖に与える影響                                | 沼田 真也 |

## 6. ECO-TOP プログラム

### 6.1 ECO-TOP プログラム修了者

2017年度は、学士課程1名がECO-TOPプログラムを修了した。

ECO-TOP プログラム修了者一覧（2017年度）

| 学域 / コース      | 氏名   | ECO-TOP ID 番号  |
|---------------|------|----------------|
| 自然・文化ツーリズムコース | 内山貴久 | 01eco-top17001 |

### 6.2 インターンシップ

2017年度は学士課程3年生3名が、下記の受け入れ先でインターンシップを実施した。

ECO-TOP プログラムにおけるインターンシップ先一覧

| 学年   | 民間企業              | NPO, 財団, 社団    | 行政            |
|------|-------------------|----------------|---------------|
| 学士3年 | パシフィックコンサルタンツ株式会社 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 調布市役所環境部環境政策課 |
| 学士3年 | パシフィックコンサルタンツ株式会社 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 東京都環境局自然環境部   |
| 学士3年 | 株式会社日立製作所         | 公益財団法人日本自然保護協会 | 東京都環境局自然環境部   |

## 7. ASEAN国際学生交流事業学生派遣プログラム

首都大学東京は、ASEAN国際学生交流事業学生派遣プログラム（AIMS）のパートナー大学として、ツーリズムを通じた科学的視点における地域開発に焦点を当て、都市環境学部を通じた短期の留学プログラムを実施している。2017年度の学生の受け入れ、派遣の状況は以下の通りである。

### 7.1 マレーシアからの学生の受け入れ

マレーシア工科大学の地理情報・不動産学部4名、マレーシア・プトラ大学の森林学部1名、経済・経営学部1名の計6名の学生を受け入れた。滞在期間と主なプログラムは以下の通りである。

- ・ 滞在期間 2017年9月4日～2018年1月31日
- ・ 滞在场所 桜都寮
- ・ 発表会等
  - AIMS Wrap-Up Program  
(2017年12月15日 於・東京農工大学小金井C)
  - Final Presentation and Farewell Party  
(2018年1月25日 於・首都大学東京南大沢C)
- ・ 講義
  - 事前共通教育  
Overview of Japan / International Environmental and Agricultural Science / Engineering for Sustainable World (Virtual Manufacturing) / Study Tour (Agriculture and Food Technology) / Study Tour (Hightech Japan) / Overview of Regional Sustainability Science / Tourism and Geography in Japan
  - 専門科目  
Transport Planning and Management for Tourism Promotion / Regional Environmental Studies / Environmental Ecology II / Town Planning in Tourism / Tourism theories and practice / Tourism Theory II / Tourism Informatics / Exercise on Geographic Information Science for Tourism / Field Exercise in Environmental Ecology / Nature- and culture-based tourism science Seminar I / Regional environment science : practical field training\* / Exercise on Community Development through Tourism\*

\*のついている科目は、東京農工大学および茨城大学が受け入れている留学生でも履修可能な乗入科目として提供された。

### 7.2 自然・文化ツーリズムコースからの派遣

自然・文化ツーリズムコースからは5名(3年生3名,4年生2名)を派遣し、都市基盤環境コースからも3年生2名を派遣した。計7名のうち3名はマレーシア工科大学へ、4名はマレーシア・プトラ大学へ派遣された。派遣期間と当該派遣学生が現地で履修した科目は以下の通りである。

- ・ 期間：  
2017年9月5日～2017年1月22日 (UTM)

2017年8月28日～2018年1月18日 (UPM)

- ・ 派遣先大学・学部：
  - 1) マレーシア工科大学 (UTM)  
建築環境学部 3名
  - 2) マレーシア・プトラ大学 (UPM)  
森林学部 2名, 経済・経営学部 2名
- ・ 履修科目
  - 1) マレーシア工科大学 (UTM)  
建築環境学部  
Land Use Planning / Introduction to Environmental Economics / Sustainable Transportation / Urban Design / Tourism Planning 1
  - 2) マレーシア・プトラ大学 (UPM)  
森林学部  
Outdoor Recreation Skills / Environmental Interpretation / Outdoor Recreation Planning  
経済・経営学部  
Hospitality, Tourism and Recreational Marketing / Planning & Development of Hospitality, Tourism & Recreation Resources / Promotion Management / Hotel & Resort Management / Tourism and Recreation Economics

## 8. 観光経営副専攻

### 8.1 観光経営副専攻コース修了者

2017年度は、下記の27名が観光経営副専攻コースを修了した。

|                        |     |
|------------------------|-----|
| ・ 都市教養学部 人文・社会系        | 7名  |
| ・ 都市教養学部 経営学系          | 18名 |
| ・ 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース | 1名  |
| ・ システムデザイン学部           | 1名  |

### 8.2 インターンシップ

2017年度は博士前期（修士）課程1年生2名と学部3年生7名の計9名が、下記の受け入れ先でインターンシップを実施した。

#### 派遣企業：

- ・ 株式会社 ANA 総合研究所
- ・ 株式会社 味の素
- ・ 森トラスト・ホテル&リゾート株式会社
- ・ 三菱UFJニコス 株式会社
- ・ ヤマト運輸 株式会社
- ・ リゾートトラスト 株式会社

#### 学生：

|                        |    |
|------------------------|----|
| ・ 都市教養学部 人文・社会系        | 2名 |
| ・ 都市教養学部 経営学系          | 1名 |
| ・ 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース | 4名 |
| ・ 大学院 観光科学域            | 2名 |



授業の様子

## 9. 社会貢献

### 9.1 自然ツーリズム領域

#### 菊地俊夫

- ・ 公益社団法人日本地理学会代議員
- ・ 東京地学協会行事委員会委員
- ・ 日本ジオパーク委員会委員
- ・ 日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会（JONA）認証判定委員・委員長
- ・ 国土交通省審議会会長
- ・ 農林水産省生産資材専門委員会委員
- ・ 東京都環境局公園管理選定委員会委員長
- ・ 海上公園指定管理者評価・選定委員会委員
- ・ 八王子市公園管理選定委員会委員長
- ・ 八王子市斜面緑地保全委員会委員長
- ・ 調布市まちづくり審議会委員
- ・ 小平市産業振興計画検討委員会委員長
- ・ 小平市農業振興計画検討委員会委員長
- ・ 大島復興計画策定委員会委員

#### 沼田真也

- ・ 日本生態学会 キャリア支援専門委員
- ・ Malaysian Journal of Remote Sensing 誌 (Malaysian Remote Sensing Society) Editorial Board
- ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所・科学技術動向研究センター専門調査員
- ・ 地方公共団体人事委員会技術専門問題作成委員
- ・ 多摩市みどりと環境審議会・会長
- ・ 多摩市街路樹よくなるプラン改訂委員会・副委員長
- ・ 国分寺市環境推進管理委員会・委員
- ・ 国分寺市環境アドバイザー
- ・ 国際自然保護連合 (IUCN)・世界保護地域委員会 (WCPA)・委員, 観光と保護地域専門家グループ (TAPAS)・メンバー
- ・ 一般向け講演

#### 杉本興運

- ・ 日本地理学会総務委員会委員
- ・ 日本地理学会シンポジウムオーガナイザー
- ・ 地理情報システム学会代議員
- ・ 日本地理学会観光地域研究グループ発起人
- ・ 日本観光研究学会研究分科会代表
- ・ 地理空間学会ゲストエディター
- ・ 地理空間学会シンポジウムオーガナイザー
- ・ 国立環境研究所での講演

- ・ 浅間北麓ジオパークシンポジウムでの講演
- ・ 首都大オープンユニバーシティ「MICE 講座」の講師
- ・ 査読貢献：Tourism Management, Transactions in GIS, Sustainable Cities and Society, GIS-理論と応用, 地理空間, 観光科学研究

#### 保坂哲朗

- ・ 東京サマーランド・ワンダフルネイチャービレッジにおけるオープンユニバーシティ. 『ゲーム感覚で生物多様性を調査する』コーディネータ. 2017年10月7日.
- ・ Restoration Ecology, Journal of Environmental Management, Entomological Science, Oriental Insects, Forest Ecology and Management, Ethology Ecology & Evolution, Coleopterists Bulletin, Biological Conservation などの論文査読

#### 太田慧

- ・ 日本地理学会 選挙管理委員会

### 9.2 文化ツーリズム領域

#### 清水哲夫

- ・ 一般財団法人運輸総合研究所総合研究部研究アドバイザー
- ・ 公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長
- ・ 公益社団法人日本観光振興協会日本観光振興アカデミー学長
- ・ 日本観光研究会学理事
- ・ 交通工学研究会第二学術小委員会委員
- ・ 交通工学研究会研究委員会技術顧問
- ・ 土木学会土木計画学研究委員会 ITS とインフラ・地域・まちづくり研究小委員会委員長
- ・ 土木学会国際センターミャンマーグループリーダー
- ・ 東アジア交通学会国際学術委員会委員兼委員選定小委員会委員長
- ・ 観光統計整備に関する検討会委員（観光庁）
- ・ 地域道路経済戦略調査研究会委員（国土交通省道路局）
- ・ 観光地域ブランド確立支援事業等検討委員会委員（観光庁）
- ・ 利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議委員兼水辺空間活用ワーキング主査（東京都）
- ・ 羽田空港機能強化の情報提供のあり方に関する有識者懇談会委員（東京都）
- ・ 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- ・ まちの魅力向上に向けた道路等の公共空間活用検討会委員（千代田区）
- ・ 大田区交通政策基本計画推進協議会副会長
- ・ 地域連携推進団体協議会アドバイザー（(財)国土計画協会）
- ・ 首都高交通量推計手法検討委員会幹事長兼委員（(株)首都高

速道路)

- ・ 首都高の料金に関する懇談会委員 ((株) 首都高速道路)
- ・ 観光経営トップセミナー
- ・ 地域創生スクール
- ・ 東京都観光経営人材育成講座
- ・ パレスチナ観光統計整備支援研修 ((独法) 国際協力機構) (2017.7.18)
- ・ 平成 29 年度地域活性化企画研修 (国土交通大学校) (2017.7.21)
- ・ 中国国家民族委員会「民族の特色を活かした観光業」訪日研修 ((一財) 日本国際協力センター) (2017.9.1)
- ・ 平成 29 年度第 1 回地域 ITS 研究会 (北海道 ITS 推進フォーラム) (2017.9.13)
- ・ 第 1 回観光経営研究会 ((公社) 日本観光振興協会) (2017.10.16)
- ・ 平成 29 年度総合交通体系研修 (国土交通大学校) (2017.10.23)
- ・ パレスチナ観光統計整備支援研修 ((独法) 国際協力機構) (2017.11.21)
- ・ 地域政策セミナー ((株) ドーコン) (2018.1.22)
- ・ DMO のヒト・モノ・カネの課題解決につながるセミナー (愛知県振興部観光局) (2018.1.23)
- ・ 平成 29 年度港湾局重点課題研修 (東京都港湾局) (2018.2.2)
- ・ DMO を担う人材育成研修 ((公社) 日本観光振興協会) (2018.2.27)
- ・ 第 210 回政策課題勉強会 (国土交通政策研究所) (2018.3.29)

## 川原晋

- ・ 日本建築学会 都市計画本委員会「地域観光プランニング小委員会」幹事
- ・ 長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト デザイン会議委員
- ・ 青梅観光戦略創造プロジェクト委員会 座長
- ・ 「地域が稼ぐためのクラウド等を活用した知的観光基盤整備事業」有識者検討会委員
- ・ 藤沢市都市景観アドバイザー (藤沢市計画建築部景観課)
- ・ 八王子市景観審議会委員 (八王子市まちなみ景観課)
- ・ 同・協議審査専門部会委員
- ・ 同・制度設計部会委員
- ・ 同・景観 100 選定部会委員
- ・ 八王子市観光コンベンション協会 理事
- ・ 八王子市高尾山口駅周辺地区まちづくり連絡会準備会委員 (八王子市都市計画課)
- ・ 川崎市民間活用推進委員会委員
- ・ 横浜市地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会委員
- ・ 一般社団法人大田クリエイティブタウンセンター理事
- ・ 稲城エリアマネジメント南山 賛助会員
- ・ 国土交通大学校「建築計画 (企画・設計) 研修」講師

## 岡村 祐

- ・ (ゲスト講師)「サステナブル・デザイン論」, 文教大学, くりらぼ多摩川 (東京都大田区), 2017 年 11 月 23 日
- ・ (ゲスト講師)「都市の文化・観光政策」, 東京大学まちづくり大学院, 東京大学 (東京都文京区), 2017 年 10 月 6 日
- ・ 茅ヶ崎市景観アドバイザー (神奈川県茅ヶ崎市), 2005.11 ~
- ・ 韮崎市史跡新府城跡保存整備委員会委員 (山梨県韮崎市), 2013.04 ~
- ・ 東京都福祉のまちづくり推進協議会委員 (東京都), 2014.05 ~
- ・ 調布市都市計画審議会委員 (東京都調布市), 2016.06 ~
- ・ 日本都市計画学会 (学術委員会委員)
- ・ 日本建築学会 (地域観光プランニング小委員会委員主査)
- ・ NPO 法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎副理事長
- ・ 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター代表副理事

## 片桐由希子

- ・ 都市計画学会事業委員
- ・ 造園学会編集委員
- ・ 佐倉市景観審議会委員
- ・ 八王子医療刑務所移転後用地の活用に関する懇談会委員
- ・ 新潟県立都市公園指定管理者評価・審査委員

## 野田満

- ・ 日本建築学会 農村計画委員会 環境共生小委員会 (幹事) /2016.04-
- ・ 日本建築学会関東支部 農村建築専門研究委員会 (幹事) /2017.04-
- ・ 日本建築学会関東支部 研究運営委員会 (委員) /2017.04-
- ・ 日本建築学会関東支部 農村建築専門研究委員会「まちづくりの仕事への関わり方を紹介する本」WG/2016.04-

## 平田徳恵

- ・ 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 情報事業部会委員 (サステナビリティ分科会)
- ・ 八王子市まちづくりアドバイザー
- ・ 調布市街づくり専門家
- ・ 東京都観光経営人材育成講座講師
- ・ 駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 非常勤講師



## 9.3 観光政策・情報領域

### 直井岳人

- ・ 日本観光研究学会学術委員
- ・ 平成 29 年度日本国際観光学会総会基調講演（東洋大学 白山キャンパス 5 月 27 日「研究発信を通して見た海外の観光研究の潮流」）
- ・ 国連世界観光機関駐日事務所・東洋大学主催の特別講演会の運営（東洋大学 白山キャンパス 9 月 22 日「持続可能な観光国際年 -Sustainable Tourism を目指して-」）
- ・ 人間・環境学会第 113 回研究会「観光資源としての都市環境」パネリスト（法政大学市谷田町校舎 11 月 26 日「観光における人と環境の関係：非日常性の持つ表層性、複合性と任意性」）

### 本保芳明

- ・ 観光庁参与
- ・ 国連世界観光機関駐日事務所代表
- ・ UNWTO 世界倫理委員会委員
- ・ 東京の観光振興を考える有識者会議座長
- ・ 東京ブランド推進会議副座長
- ・ 三重県観光審議会委員
- ・ 三重県政策アドバイザー
- ・ インバウンド研究会委員長
- ・ 森記念財団エリア MICE 研究会委員長
- ・ 創生委員会委員
- ・ 国家公務員共済連合会宿泊施設経営改善委員会委員
- ・ 奈良フェスティバル実行委員会委員長 等

## 10. 受賞等

### 清水哲夫

- ・ 首都大学東京大学院都市環境科学研究科主幹教授,2017年11月

### 川原晋

- ・ 川端南実希,川原晋,平田徳恵「まち・ひと・しごと創生総合戦略における観光関連評価指標の傾向に関する研究」,日本建築学会大会学術講演梗概集 2017(都市計画),pp.101-104,2017.08

### 岡村祐

- ・ 「第3回ジャパン・ツーリズム・アワード」地域部門賞(おたオープンファクトリー),2017年9月

### 野田満

- ・ 日本建築学会奨励賞:住民自治の推進に向けたたふるさと納税の活用に関する研究,日本建築学会計画系論文集,2017.04

### 倉田陽平

- ・ 倉田陽平・鈴木祥平(2017) ボランティアガイドを同伴する訪日外国人観光客の東京圏での観光消費行動.観光情報学会第14回全国大会,静岡,5-6,2017年7月「全国大会優秀賞」受賞
- ・ 原辰徳,品川泰嵩,倉田陽平,太田順(2017) 観光プランの推薦技術を用いた地域内観光の気づきと構成支援.観光情報学会第15回研究発表会,札幌,2017年5月.「研究発表会優秀賞」受賞
- ・ 品川泰嵩・倉田陽平・太田順・原辰徳(2016) 観光まちづくり支援のための観光プランの推薦技術を用いた情報基盤の構築.観光情報学会第14回研究発表会,24-27,飯塚,2016年11月.「研究発表会奨励賞」受賞
- ・ 鈴木祥平・小池拓矢・倉田陽平(2016) Pokémon GO ツイートから読みとる人の動きと気づき.観光情報学会第14回研究発表会,40-43,飯塚,2016年11月.「研究発表会奨励賞」受賞

# 11. コース・学域プロモーション

## 11.1 紀要「観光科学研究」の編集・発行

2018年3月、紀要「観光科学研究」第11号を編集・発行した。7本の論文が採択・掲載された。掲載論文の内訳は、論説5本、展望1本、研究ノート1本であった。



観光科学研究 第11号

## 11.2 観光を科学するPBLの発行

2017年度の学部3年生向けPBL演習の成果について、「観光科学PBL 2017」(A4版102ページ)と題する報告書としてまとめ発行した。



観光科学 PBL 2017

## 11.3 ツーリズムマガジン

学生の自主的な取材・編集によるツーリズムマガジンを2011年10月より月1回発行し、コース/学域の最新情報や学生の生の声を学内外に発信した。



ツーリズムマガジン 平成29年度1号

## 11.4 コース進級ガイダンス

2016年度は、学部1年生、2年生を対象した進級ガイダンスを下表のとおり4回実施し、最終的に他コース、他学部から合わせて18名が当コースに進級した。

進級ガイダンスの実績

| 回   | 月日    | 参加学生数(推定) | アンケート回収数 |
|-----|-------|-----------|----------|
| 第1回 | 4月13日 | 約120名     | 79名      |
| 第2回 | 7月6日  | 約50名      | 28名      |
| 第3回 | 10月5日 | 約50名      | 33名      |
| 第4回 | 1月11日 | 約40名      | 26名      |

## 11.5 大学院入試説明会

2017年度は、大学院入試説明会を下記のとおり2度開催した。

- ・4月29日(土) 秋葉原サテライトキャンパス
- ・5月4日(日) 南大沢キャンパス

| 月日    | できごと            |
|-------|-----------------|
| 4/4   | 新入生ガイダンス／新入生歓迎会 |
| 4/7   | 入学式             |
| 4/13  | 第1回進級ガイダンス      |
| 4/29  | 第1回大学院入試説明会     |
| 5/4   | 第2回大学院入試説明会     |
| 7/6   | 第2回進級ガイダンス      |
| 7/26  | 博士論文（秋）公聴会      |
| 8/8,9 | 大学院入試（夏季）       |
| 10/4  | 博士前期課程・4年生合同ゼミ  |
| 10/5  | 第3回進級ガイダンス      |
| 1/11  | 第4回進級ガイダンス      |
| 1/24  | 修士論文発表会（審査会）    |
| 1/31  | 博士論文（春）公聴会      |
| 2/9   | 卒業論文発表会（審査会）    |
| 2/7   | 大学院入試（冬季）       |
| 3/22  | 卒業式             |





首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース  
首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域  
2017年度アニュアルレポート

<http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/index.html>

編集・発行：首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース  
発行日：2017年5月1日

内容に関するお問い合わせ

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース

野田 満 (アニュアルレポート作成担当)

電話：042-677-1111 (内) 4241

Eメール：m\_noda@tmu.ac.jp